

SYLLABUS

2005

A. 地球工学科



京都大学工学部

A 地球工学科

地球工学科

30010 地球工学総論	A-1
23010 基礎情報処理演習	A-2
22010 基礎情報処理	A-3
30043 情報処理及び演習	A-4
30030 確率統計解析及び演習	A-5
30050 地球工学基礎数理	A-6
30100 一般力学	A-7
31310 社会基盤デザイン	A-8
31320 基礎環境工学 I	A-9
31330 資源エネルギー論	A-10
20510 工業数学 B 1	A-11
30080 構造力学 I 及び演習	A-12
30130 水理学及び演習	A-13
31620 土質力学 及び演習	A-14
31340 計画システム分析及び演習	A-15
30140 環境衛生学	A-16
31350 物理探査学	A-17
30400 測量学及び実習	A-18
31170 連続体の力学	A-19
20610 工業数学 B2 (土木工学コース)	A-20
20611 工業数学 B2 (資源工学コース)	A-21
31640 構造力学 II 及び演習	A-22
30240 材料学	A-23
31110 波動・振動学	A-24
30300 水文学基礎	A-25
31360 水理水工学	A-26
31370 海岸環境工学	A-27
31070 土質力学 II 及び演習	A-28
31380 土質実験及び演習	A-29
30440 社会システム計画論	A-30
31390 基礎環境工学 II	A-31
31400 大気・地球環境工学	A-32
30530 水質学	A-33
30590 環境装置工学	A-34
30570 放射線衛生工学	A-35
31410 環境工学実験 1	A-36

31080	地質工学及び演習	A-37
30180	弾性学及び演習	A-38
31650	流体力学	A-39
31660	物理化学	A-40
31450	資源工学基礎計測	A-41
31460	資源工学地化学実験	A-42
31440	先端資源エネルギー工学	A-43
39000	学外実習	A-44
31480	空間情報学	A-45
31490	構造実験・解析演習	A-46
30250	コンクリート工学	A-47
31500	耐震・耐風・設計論	A-48
30460	河川工学	A-49
30320	水資源工学	A-50
30870	水理実験	A-51
31510	地盤環境工学	A-52
31120	岩盤工学（土木工学コース）	A-53
31121	岩盤工学（資源工学コース）	A-54
30450	都市・地域計画	A-55
30850	公共経済学	A-56
31520	交通マネジメント工学	A-57
31530	交通政策論	A-58
31630	都市景観デザイン	A-59
30540	上水道工学	A-60
30550	下水道工学	A-61
30580	廃棄物工学	A-62
31540	環境工学実験2	A-63
31690	資源工学のための材料学	A-64
31670	波動工学	A-65
30650	応力解析法及び演習	A-66
31680	熱流体工学	A-67
30770	分離工学	A-68
30760	工業計測	A-69
31570	資源工学材料実験	A-70
30830	地震・風工学	A-71
30820	ターミナル工学	A-72
30840	土木法規	A-73
30860	材料実験	A-74
30880	地球防災工学	A-75
31150	地球工学デザイン I（土木工学コース）	A-76
31151	地球工学デザイン I（資源工学コース）	A-77

31152 地球工学デザイン I (環境工学コース)	A-78
31160 地球工学デザイン I I (土木工学コース)	A-79
31161 地球工学デザイン I I (資源工学コース)	A-80
31162 地球工学デザイン I I (環境工学コース)	A-81
31020 学外実習第二	A-82
21051 工学倫理	A-83
30890 建築工学概論	A-84

地球工学総論

30010

Introduction to Global Engineering

【配当学年】1年前期

【担当者】関連教官全員

【内 容】 地球工学総論は、専門教育の最初かつ唯一の必修科目として、全体講義と少人数ゼミのハイブリッド形式で実施する授業科目である。系統的な講義によって、「地球工学という学問とは何か、それが目指すべき方向や貢献すべきことがら何であるか」について解説するとともに、個別教官によるゼミ形式の指導のもと、地球工学に関連した具体的な課題に自身で取り組むことによって、「地球工学科に在籍する4年間に何を学修すべきで、また、それにどのように取り組むべきか」について自ら学ぶ機会とする。成績評価は平常点、レポート、発表を総合的に勘案して行う。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
ガイダンス	1	本講義の内容（授業構成、全体講義の内容、少人数ゼミ実施要領等）の説明。
全体講義	7	21世紀の課題と地球工学が果たすべき役割について、講述する。
少人数ゼミ	4	地球工学科に関係している全研究室のいずれか1つに個々人分かれて、ゼミ形式の授業を受ける。その中で、教官の指導の下、地球工学に関連した特定の課題（調査・実習・実験など）を選択し、それに自ら取り組む。
安全と工学倫理	1	地球工学科での学修と研究活動に際して持つべき安全に対する意識と、技術者・研究者として持つべき工学倫理について解説する。
発表会	1	少人数ゼミにおいて取り組んだ課題の内容と成果について、試験期間内に実施する発表会において、各自プレゼンテーションを行う。

【教科書】 全体講義においては、適宜プリントを配布する。

【参考書】 少人数ゼミにおいては、各自の指導教官から指示される。

【その他】 少人数ゼミの指導教官からは、事前に相談しておけば、講義時間に関係なく個別指導を受けることができる。

＜成績評価の方法＞ 全体講義については、出席とレポート等によって評価する。また、少人数ゼミについては、課題に取り組む姿勢と最終週に行うプレゼンテーションにもとづいて評価する。

基礎情報処理演習

23010

Exercises in Information Processing Basics

【配当学年】1年前期

【担当者】相浦，沖，小野（祐），小林（俊），真田，陳，松本（忠），米田

【内 容】UNIX系OS（Linux）を道具として使いこなすための演習である。メディアセンターにおいて履修者が実際に端末を使用して演習を行う。毎回の課題を通じて、「問題解決のためのプログラム作成」「計算の実行」「計算結果の図化」「レポート作成（文章整形）」という一連のプロセスを処理する方法を理解し、今後必要となる計算機に関する基本的なスキルを身に付ける。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
概要，文字の入力とファイル作成	3	端末からのログイン・ログアウトなど基本的な操作の実行。エディタを利用して，アルファベットおよび日本語の入力方法を学ぶ。文書ファイルを作成して印刷し，成果を提出する。
電子メールとweb閲覧	2	電子メールの仕組みを理解し，端末での送受信の方法について学ぶ。本演習の出席およびレポートは電子メールを利用する。また，webの閲覧方法について学び，必要な情報を検索して調べる方法を身に付ける。ネットワークを利用する上でのマナーやセキュリティについても留意する。
UNIX コマンド・シェル	1	基本的なUNIXコマンドについて学び，使用法を身に付ける。まず，ファイルシステムについて理解し，ファイルを取り扱う上で重要なリダイレクションとパイプについても使用法を身に付ける。
文章整形	2～3	pL ^A T _E Xを利用して，思い通りに文章が整形できるようにする。また，数式の出力方法や図の挿入方法についても学ぶ。
グラフ作成	1	gnuplotを使用して，グラフ作成方法（プロット，軸スケール，注釈など）について学ぶ。
プログラミング	3～4	fortranを使用して，基本的なプログラミングについて理解する。とくに，プログラムの流れを変えるための繰り返しと条件分岐の構造を理解するとともに，その命令文の使用法を学ぶ。

【教科書】基礎情報処理演習（京都大学）

【その他】T1～T4の4クラスで行う。途中からの出席はできない。毎回の出席・演習課題および最終レポート（または筆記試験）により成績評価を行う。メディアセンターで端末を使用して演習を行うため，利用コードが必要である。「情報処理及び演習（1年後期～）」は本演習を履修していることを前提として行われる。

基礎情報処理

22010

Information Processing Basics

【配当学年】1

【担当者】稲垣耕作

【内 容】以下の内容を中心に講義形式で行う予定である。 1. コンピュータとはなにか 2. デジタル情報の世界 3. プログラムを作る 4. アルゴリズムを工夫する 5. ハードウェア設計の基礎 6. システムとしてのコンピュータ 7. さまざまな情報処理 8. コンピュータと情報通信 9. 大量データの処理 10. コンピュータ科学の諸課題

【教科書】稲垣耕作『コンピュータ科学の基礎』（コロナ社）

【参考書】授業中に適宜紹介する。

【予備知識】前期「基礎情報処理演習」を履修することを強く勧める。

情報処理及び演習

30043

Computer Programming in Global Engineering

【配当学年】1年後期

【担当者】牛島，岸田，藤本，村田，永禮，相浦，松本（忠），八木

【内 容】地球工学におけるコンピュータ利用の現状と必要とされる情報処理技術を解説するとともに、プログラミング言語を習得させる。実際にコンピュータを使用して、科学技術計算言語である FORTRAN のプログラミング及び計算の実習を行い、地球工学における情報処理に関する基礎的能力を習得させる。T1～T4の4クラスで行う。成績評価は、期末試験および演習・レポート等を総合的に勘案して行う。評価の詳細は、各クラス毎に最初の講義で説明を行う。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
情報処理概説	1	地球工学におけるコンピュータ利用の現状、将来必要とされる情報処理技術および情報倫理の概要を説明する。また、実習で用いるプログラミング言語 (Fortran90) 及び計算機の概要と端末の使用方法について説明する。
入出力と変数	2	簡単なプログラムを例として、入力、計算処理、出力からなる基本的なプログラムの構成を説明し、組み込み関数、入出力の命令文の使用方法を理解させる。また、データの種類を説明し、宣言文の書き方、計算上の注意点について述べる。
分岐と繰り返し	2	プログラムの流れを変えるための条件分岐、繰り返しなどの構造を解説するとともに、命令文の使用方法を述べる。また、フローチャートによるプログラム構造の表現について説明する。
配列と文字変数	2	実用的計算を行う上で重要な配列の概念を解説し、その宣言、入出力、配列演算、参照の方法を説明する。また、文字変数の宣言、参照、結合、組み込み関数の適用方法等を理解させる。
サブルーチン	2	大規模なプログラムを機能ごとに作成する方法を説明し、サブルーチン、関数副プログラムの使用法を理解させる。
応用計算	6	以上のプログラミングに関する基礎を前提として、地球工学分野における代表的な応用計算の例を示す。統計処理、グラフ作り、乱数の発生、連立方程式、数値積分、数値シミュレーションなどを取りあげる。アルゴリズムの整理、フローチャートの作成、計算結果のまとめをレポートとして提出させ、プログラムの作成手順を習熟させる。

【教科書】富田博之著：Fortran90プログラミング 培風館

【予備知識】基礎情報処理演習を履修していること。

【その他】途中からの出席はできない。オフィスアワーは特に設けないが、必要に応じて各教官室で対応する。対応の方法は、各クラス最初の講義で説明を行う。

確率統計解析及び演習

30030

Probabilistic and Statistical Analysis and Exercises

【配当学年】2年前期

【担当者】北村・東野・中北・堀

【内 容】地球工学における数理的処理の基礎的方法として、確率統計解析の方法と工学への応用について講述する。特に、確率統計の解析理念を検討し、基礎的な確率分布とその利用方法を述べ、さらに統計的な推定検定の方法を概説する。また、応用的な方法として、多変量解析について、工学的意味を重視して講述する。講義は4クラスに分かれての並列講義である。成績評価の詳細は、各クラスの担当教官から初回講義時に伝える。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
確率統計的方法の意義	1	確率統計の工学的な意義について講述し、工学全般における必要性について概説する。
不確定現象の確率的把握	3	確率概念とその基本定理について述べる。特に、確率変数、確率分布関数、確率密度関数、積率母関数および特性関数を説明するとともに多次元確率分布、確率変数の変換・合成について講述する。
確率分布モデル	3	中心極限定理から導かれる正規分布、ランダム現象を示すポアソン分布などの実現象を表現するために有効な各種の確率分布について、それらの特徴、性質について講述する。
標本分布および統計的推定・検定	4	χ^2 分布、t 分布、F 分布などの標本分布とその求め方について説明するとともに、標本の値から母集団の確率的性質を導くための統計的推定について、点推定および区間推定の考え方およびその方法、さらに工学的現象の有意性を検証するための統計的検定法について講述する。
多変量の統計分析・回帰分析	2	確率統計の理論をもとに、主として調査データを分析するための多変量解析、分散分析の方法について述べる。特に、一次回帰分析を例として、確率モデルと信頼限界について概説する。

【教科書】授業時にプリントを配布する。

【参考書】授業中に適宜紹介する。

【予備知識】微分積分学、線形代数学を履修していることが望ましい。

【その他】4クラスに分かれて並列講義を行う。当該年度の授業回数などに応じて、一部省略・追加がありうる。オフィスアワーは特に設けないが、授業・演習時または教官室で質問を受け付ける（事前にアポイントメントを取ること、教官へのコンタクト方法はクラス毎に初回講義時に伝える）。

地球工学基礎数理

30050

Mathematics for Global Engineering

【配当学年】2年前期

【担当者】五十嵐・宇野・小高・後藤・清水・塚田・新苗・藤原

【内 容】地球工学の各専門科目に要求される数理解析の基礎的能力を養成することを目的として、常微分方程式・偏微分方程式とその各種解法に関連する事項について解説し、演習を通じてその理解を深める。地球工学に関連する基本的な現象の例についても適宜取り上げ、数理モデルの導出から解の導出に至る過程を具体的に説明する。成績評価は、期末試験、レポート、小試験等を総合的に勘案して行う。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
常微分方程式 とラプラス変換	6	1階微分方程式，線形微分方程式，高階微分方程式の取り扱いおよび基本的な解法を習得する。特に，常微分方程式の線形性に基づく解法について講述するとともに，力学や振動問題，熱伝導現象などへの適用についても解説する。また，常微分方程式の初期値・境界値問題の解法として，ラプラス変換による解法を説明する。
ベクトル解析	2	ベクトルの内積，外積，ベクトルの勾配，発散，回転，ベクトルの面積分，線積分（ガウスの発散定理，ストークスの定理）について述べる。これらの概念の連続体力学への応用等にも触れる。
偏微分方程式	5	偏微分方程式，特に波動方程式やラプラス方程式などに代表される線形2階偏微分方程式に関する解説および演習を行う。初期値・境界値問題の解法として，変数分離法，ラプラス変換，フーリエ級数およびフーリエ変換などによる解法を説明する。波動伝播，流体中の移動・拡散現象，地盤の圧密現象などへの適用についても適宜言及する。

【教科書】本講義用に作成された資料を配布

【参考書】指定しない。

【予備知識】総合人間学部の微分積分学 A，B，線形代数学 A，B の知識を前提とする。

【その他】4クラスに分け，クラス毎に定められた教員により同じ時間帯に授業を行う。オフィスアワーは各教員別に設定し，時間，コンタクト方法等は初回講義時に伝える。期末試験は定期試験期間中に行う。

一般力学

30100

Fundamental Mechanics

【配当学年】2年前期

【担当者】田村・塚田

【内 容】質点，質点系および剛体を中心に，ニュートン力学の基礎とその工学への応用について講述する．とくに，1学年の数学を基本として，力学で必要となる数学的手法を紹介するとともに，専門科目としての学ぶ種々の力学との関連を説明しながら，それらを体系的に理解できる能力を養成する．

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
数学的基礎	2	単振動，連成振動を理解するために必要な2階常微分方程式の解の構成法および固有値問題．速度，加速度ベクトル，仕事，保存力，ポテンシャルの概念に必要な最小限の範囲のベクトル解析等．
運動の法則	2	速度，加速度ベクトルの定義と各種座標系におけるそれらの成分の計算法．ニュートンの運動法則の意義．運動量，角運動量とその保存則．単振動，減衰振動，強制振動，固有周期，共鳴．
仕事とエネルギー	2	運動方程式，仕事，運動エネルギーの関係．保存力と位置エネルギー，力学的エネルギー保存則．外力ポテンシャルと仕事．
運動座標系	1	運動方程式とガリレイ変換．回転座標系と慣性力（遠心力，コリオリ力）．
質点系の力学	2	重心の運動と相対運動．運動量と角運動量の保存則．内力と外力．連成振動と固有モード．座標変換と運動の表現．
剛体の力学	3	自由度と剛体の定義．力，偶力，力のモーメント，つりあい条件．固定軸回りの回転，角速度，角加速度，慣性モーメント．慣性主軸と主慣性モーメント．剛体の運動とオイラーの方程式．
解析力学の基礎	2	束縛条件，束縛力，一般化座標，一般化力，ラグランジアンとラグランジュの運動方程式．

【教科書】田村 武：連続体力学入門（朝倉書店）田村担当分

小出昭一郎：力学（岩波全書）塚田担当分

【参考書】鶴井 明：工業力学（培風館）

【予備知識】総合人間学部の微分積分学，線形代数学を前提として講義する．

【その他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略，追加がありうる．

社会基盤デザイン

31310

Design for Infrastructure

【配当学年】2年前期

【担当者】五十嵐・牛島・勝見・木村・吉井・その他関連教官

【内 容】土木工学（Civil Engineering）は、長年にわたり社会基盤整備と公共空間の創造を通じて、市民工学としての役割を果たしてきた。本講義では、土木工学が「市民工学、環境創生工学、現代総合工学、人類工学、創造工学」であることを、「防災、環境、デザイン、社会とのかかわり、技術者倫理」などのキーワードで解説する。成績評価は、期末試験、レポート等を総合的に勘案して行う（期末試験 70 点、レポート等で 30 点、合計 100 点満点）。

【授業計画】

項目	回数	内容説明
社会基盤デザイン概説	1	本講義のガイダンスと土木工学に関する最近の話題を紹介する。
土木と防災	2	社会基盤構造物の耐震技術や自然災害への対応策を通して、土木工学が防災に果たす役割を解説する。
土木と環境	2	地盤環境や河川環境の保全と新たな創生法を通して、土木工学が持続可能な社会の実現に果たす役割を解説する。
土木とデザイン	3	都市景観・交通工学のデザインの考え方や交通渋滞へのソフト的方策を通して、土木技術者のデザインへのかかわりを解説する。
土木技術者の倫理	2	先人の業績（土木遺産）や事例分析を通して、土木技術者の倫理について解説する。
土木と社会	3	土木と社会のかかわりをトピック的に紹介し、土木工学を学ぶことの意義と実社会へのかかわりを解説する。外部講師による特別講演も実施する。

【教科書】必要に応じて印刷物を配布する。

【予備知識】特に予備知識は必要としない。

【その他】本講義は担当教官によるリレー式講義である。全体の取りまとめは、木村（土木西館 154 号室、kimura@toshi.kuciv.kyoto-u.ac.jp）が担当している。

基礎環境工学 I

31320

Fundamental Environmental Engineering I

【配当学年】2年前期

【担当者】内山巖雄・高岡昌輝・松井利仁・山田春美

【内 容】人間活動に伴って起こる環境に与える影響や環境に関する諸問題を理解すること、ならびに環境工学の基礎を学ぶことを目的とする。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
環境工学概論	1	人間活動と環境影響の変遷、環境保全のための環境基本法、環境基本計画、環境基準等、環境倫理について述べると共に、環境工学概の概要を講述する。
廃棄物	2	一般生活や産業に伴う廃棄物の発生と要因、廃棄物処理技術、廃棄物の抑制等について講述する。
大気環境保全	3	大気の構造、大気汚染問題、地球環境問題の現状、大気環境問題の発生と機構、下層大気、特に大気境界層の気象学、気象条件と大気汚染物質の挙動との関わりについて述べる。また大気環境影響評価（アセスメント）の基礎となる大気拡散モデルの特性について説明するとともに、大気環境保全・管理への応用について述べる。
水環境保全・土壌汚染	3	水環境の構成と機能、水質汚濁の要因と機構、水質変化、河川・湖沼・海域の汚濁と機構、水環境保全、管理技術、土壌汚染の要因と機構等について述べる。
騒音・振動	2	騒音・振動公害の現状、各種騒音・振動源の特徴、騒音レベル、振動レベル等の物理的尺度、および等価騒音レベル、時間率レベル等の変動騒音／振動の評価尺度について述べる。
化学物質のリスク管理	2	多種多様な化学物質の環境リスクとは何か、環境リスク削減のための包括的なリスク管理等について述べる。

【参考書】平成16年度環境白書（環境省） その他担当教官から指示あり

【予備知識】特に必要としない

【その他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加があり得る。評価は出席点および筆記試験で行う。

資源エネルギー論

31330

Resources and Energy

【配当学年】2年前期

【担当者】馬淵、楠田、福中

【内 容】資源・エネルギー問題は、人類が抱える最重要かつ緊急の課題である。本講義では、地球科学や資源地質学の立場から、資源枯渇、鉱物資源、エネルギー技術、物質循環など資源・エネルギー工学の基礎について講述する。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
地球環境視点からの資源エネルギー問題	2	地球環境の起源と環境資源エネルギー問題のかかわりを地球化学的観点から概観すると共に熱力学初歩を学ぶ。
資源・エネルギーの需要と枯渇問題	2	資源エネルギー需要の動向を統計データを基に分析するとともに、予測される資源の枯渇について説明する。
鉱物資源	2	種々の金属鉱物資源の成因、分布（偏在性）、資源量など鉱物資源の現状について述べるとともに、将来展望を考察する。
炭化水素資源	2	石油、石炭、天然ガス及び潜在的炭化水素エネルギー（オイルシェール、メタンハイドレート、バイオマスなど）の成因及び将来展望について述べる。
新エネルギー技術	3	原子力、水力、地熱、太陽エネルギー、温度差発電、潮力発電、風力エネルギーなどの新エネルギー技術の研究開発動向について講述する。
省資源・省エネルギー技術	2	持続的発展、資源生産性、物質循環をキーワードに、3R（Reduce, Reuse, Recycle）技術など省資源・省エネルギー技術の研究開発動向について説明する。

【教科書】西山 孝 「地球エネルギー論」 オーム社

【参考書】志賀美英 「鉱物資源論」 九州大学出版会

【その他】オフィスアワーは特に設けない。随時、各教員室（馬淵 163 号室、楠田 324 号室、福中 462 号室、いずれも工学部 1 号館）を訪ねること。

工業数学B 1

20510

Engineering Mathematics B1

【配当学年】2年後期

【担当者】青柳 富誌生

【内 容】複素関数論の入門と2, 3の応用

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
複素関数論の 入門と2, 3 の応用	12~14	複素数の定義, 複素平面. 複素関数の微分, コーシー・リーマン関係式. 正則関数の概念, 等角写像の概念, 一次変換. 複素線積分とその性質. コーシーの積分定理, コーシーの積分公式. テイラー展開, ローラン展開. 特異点の分類, 留数定理. 定積分への応用. 偏角の原理とその応用.

【予備知識】微分積分学の基礎（全学共通科目の微分積分学A・B及び微分積分学統論A）

【その他】当該年度の授業回数などに応じて授業計画の一部修正がありうる。

構造力学 I 及び演習

30080

Structural Mechanics I and Exercises

【配当学年】2年後期

【担当者】家村・清野・澤田(純)・白土・杉浦

【内 容】構造物に作用する外力、力の性質、断面に生じる力、応力、変位ならびにひずみや変形、断面の幾何学的性質、応力とひずみ、変位の計算法、および柱の座屈について述べる。主として静定構造物を対象とする。成績評価は、期末試験、中間試験、レポート等を総合的に勘案して行う。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
序論	1	構造物と部材 構造力学の目的と取り扱う範囲 構造力学での仮定 技術者倫理に関連する事例
力の性質	1	外力 外力のモデル化 力のつりあい 静定、不静定および不安定
断面に生じる力	8	自由物体のつりあい 断面力 微小部分の断面力 軸力 曲げモーメントとせん断力 ねじりモーメント 影響線
応力	2	応力：単位断面積あたりに作用する力 応力と座標系
変位と変形	4	変位 変形 ひずみ 曲率とねじり率
断面の性質	2	断面一次モーメント 断面二次モーメント
応力とひずみ	2	フックの法則 断面力と変形 断面係数
変位の計算法	4	引張・圧縮部材 はりのたわみ トラスのたわみ 静定構造と不静定構造
柱・はりの座屈	2	座屈現象 オイラーの座屈荷重 偏心圧縮柱

【教科書】「構造力学 I」渡邊英一・松本 勝・白土博通著、丸善

【予備知識】微分積分学 A・B の知識を前提とする。

【その他】5クラスにわけ、クラス毎に定められた教員により同じ時間帯に授業を行う。オフィスアワーは各教員別に設定し、時間、コンタクト方法等は初回講義時に伝える。

水理学及び演習

30130

Hydraulics and Exercises

【配当学年】2年後期

【担当者】酒井（哲）・瀬津・細田・戸田・牛島・岸田・後藤・角・藤田・山下（隆）

【内 容】各種の土工計画及び水理構造物設計の基礎となる水の運動の力学を流体力学との関連より体系的に講述し、静水力学、流体運動の基礎理論、水の波の基礎理論、粘性と乱れ、次元解析、ならびに管路及び開水路における定常流を取り扱う。演習問題を課し、基礎理論の実際問題への応用を習熟させる。成績評価は、期末試験、中間試験および小試験等を総合的に勘案して行う（期末試験 50 点、中間試験 50 点、小試験等の日常学習の評価 10 点、合計 110 点満点）

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
水理学概説（第 1 回）	1	水理学について概説し、技術者倫理に関連する事例について解説する。
静水力学（第 2～3 回）	2	静水圧、浮力、浮体の安定 について解説・演習する。
流体運動の基礎（第 4～6 回）	3	連続体の力学、システム法とコントロールボリューム法、連続式、運動方程式、次元解析法 について解説・演習する。
完全流体（第 7～8 回）	2	Bernoulli の定理、二次元非回転流れ について解説・演習する。
水の波（第 9～11 回）	3	微小振幅波（基礎式、浅水波、深水波、長波）、波のエネルギーとその輸送、群速度、定常波 について解説・演習する。
中間試験（第 12 回）	1	
粘性と乱れ（第 13～14 回）	2	変形応力、Navier Stokes の式、層流のせん断応力と摩擦損失、層流と乱流、乱流の Reynolds 応力、乱流の流速分布 について解説する。
次元解析と相似律（第 15 回）	1	水理量と次元解析、パイ定理、相似律について解説・演習する。
管路の定常流（第 16～19 回）	4	エネルギー式、管内乱流の抵抗則、形状損失、サイフォン、管路（単一、並列、管路網）の計算 について解説・演習する。
開水路の定常流（第 20～26 回）	7	エネルギー式、運動量式、水面形方程式とその特性、比エネルギー、比力、跳水、漸変流の基礎式、基本水面形、種々の水面形（スルースゲート、段落ち、横流入ほか）、漸変流の解析法 について解説・演習する。

【教科書】全体としては、指定しない（講義に関しては班によって異なる）。演習は、共通教材（印刷物）を配付する。

【参考書】指定しない。

【予備知識】微積分、線形代数の基礎など、大学教養 1 年次の標準的な数学。

【その他】講義と演習を並行して実施する。オフィスアワーは特に設けませんが、吉田地区の教官については必要に応じて各教官室で対応する（酒井 221 室・瀬津 284 室・細田 216 室・牛島 283 室・岸田 218 室・後藤 222 室・角 272 室）。防災研究所の教官（戸田・藤田・山下）については、講義・演習時にコンタクトの方法を伝える。

土質力学 及び演習

31620

Soil Mechanics I and Exercises

【配当学年】2年後期

【担当者】大西・岡・嘉門・勝見・小高・三村

【内 容】土の構造とその工学特性の理解のため、土の分類と評価方法、締め固めた土の特性、土中における水の移動現象、土の圧密変形と粘土地盤の沈下解析、土の強度と破壊に関する物理現象を説明する。さらに、演習問題を通じてこれらの問題を数理的に取り扱う手法を修得し、講義の内容の理解を深める。成績評価は、期末試験、中間試験、レポート等を総合的に勘案して行う。(期末試験 70 点、中間試験+レポート+小試験等で 30 点、合計 100 点満点)

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
地盤の成り立ち、地盤と社会基	1	地盤の成り立ちや社会基盤との関わりを解説し、土質力学全般に関する概論を講述する。
地盤と災害、地盤と環境	1	地盤に関わる災害や環境問題について解説する。併せて、技術者倫理に関連する事項・事例について解説する。
土の指示的性質、応力、締め固め	2	土の構造と分類、物理的性質の表現方法とその定量的評価手法について解説し、演習問題を通じてその理解をはかる。また、土の締め固め特性とそれを調べるための試験法について解説し、演習問題を通じてその理解をはかる。
土の透水と土中の水理	3	地盤を流れる水の運動について基本的な現象の説明を行い、この運動を支配するダルシーの法則とその適用について解説する。さらに、各種地盤構造物内における浸透問題を解析的に解く手法について演習問題を利用しながら説明する。
中間試験	0.5	
土の圧密と圧縮、粘土地盤の沈下予測	3	有効応力の原理および土の圧密現象を説明し、これを数理的に取り扱う手法、ならびに粘土の圧密特性を表す諸量について解説する。さらに圧密による地盤の沈下予測を行うための解析手法について演習問題を用いて説明する。
変形・強度と破壊理論	2.5	モールの応力円を用いて、多次元場での土の応力状態を予測する手法について解説する。土のせん断による破壊現象の発生機構を解説する。さらに基礎となる土の強度の考え方とその測定のための試験法について演習問題を利用して説明する。

【教科書】岡二三生著：土質力学（朝倉書店）。演習問題集（講義第1回目に配布）、その他、必要に応じて印刷物を配布する。

【参考書】岡二三生著：土質力学演習（森北出版）

【その他】オフィスアワーは特に設けない。本部教員については各教員室（大西 D352 室、岡 D432 室、嘉門 D174 室、小高 D428 室、勝見 D173 室、いずれも工学部 5 号館）を訪れること。防災研究所教員（三村）については、講義時にコンタクト方法を伝える。

計画システム分析及び演習

31340

Systems Analysis and Exercises for Planning and Management

【配当学年】2年後期

【担当者】多々納・谷口・山田・吉井・菊池・倉内

【内 容】 社会機構の高度化、価値観の多様化に伴って計画システム的な考え方がますます重要となってきた。本講義では、計画システムの基礎概念およびシステム設計のための手法としての最適化計画手法および待ち行列理論について体系的に講述し、あわせてこれらの適用法に関する演習を行う。成績評価は、期末試験、レポートなどを総合的に勘案して行う。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
計画システム 分析概説	1	計画システムの基礎概念について概説し、技術者倫理に関連する事例について解説する。
線形計画法	7	最適化手法の基本的な手法である線形計画法について講述する。まず制約条件と目的関数の定式化について説明し、ガウスジョルダンの消去法、シンプレックス法、双対シンプレックス法、限界価値、感度分析、輸送問題について理解させる。
非線形計画法	8	制約がない問題に対する古典的微分法、等式制約問題に対するラグランジュ乗数法、不等式制約問題に対するキューン・タッカー条件に関する理論を説明し、最急降下法、ニュートン法、直線探索法などの計算方法を述べ、非線形最適化問題の解法を理解させる。
動的計画法	6	複雑なシステムの最適解を多段階に決定していく手法である動的計画法について講述する。ダイナミックプログラミングの解法、多段階における最適決定法について理解させる。また、PERTなどのネットワーク計画手法について説明する。
待ち行列理論	4	最適化を実施するための重要な手法の一つとして、待ち行列理論を取り上げ、その基礎理論について解説した後、定常解の導出方法について講義する。

【教科書】飯田恭敬編著：土木計画システム分析（最適化編）（森北出版,1991）
演習は、共通教材（プリント）を配布する。

【参考書】飯田恭敬，岡田憲夫編著：土木計画システム分析（現象分析編）（森北出版,1992）
大石 進一著：待ち行列理論，コロナ社，2003

【予備知識】総合人間学部開講の微分積分学を前提としている。

【その他】オフィスアワーは各教員別に設定し、時間、コンタクト方法は、各担当教員の初回講義時に伝える。

【配当学年】2年後期

【担当者】内山、松井（利）

【内 容】環境衛生学の概念を理解すると共に、健康に深い関わりのある環境要因（大気環境、水環境、廃棄物、各種有害化学物質のリスク、騒音、温熱など）について、環境と健康の両面から講述する。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
環境衛生学概論および大気環境と健康	3	環境衛生の歴史、環境と健康の関わり合い、呼吸器系の構造と機能、大気汚染問題とそれに起因する健康影響、環境基準について講述する。
廃棄物とダイオキシン類	2	廃棄物問題と環境について、特にダイオキシン類の健康影響について講述する。
水環境と健康	1	水環境の評価、飲料水基準、水に起因する疾患等について講述する。
音と振動	3	聴覚およびその機能、騒音と振動の尺度と単位、健康影響などを講述する。
疫学および統計学	2	疾病頻度の指標、交絡要因の調整方法、各種疫学研究方法、および統計学的解析の際に注意すべき点について講述する。
地球環境問題	1	地球環境問題のうち、関連する条約、地球温暖化と健康影響、温熱環境と健康に関して講述する。またオゾン層の破壊、酸性雨についても講述する。
環境リスクとリスクコミュニケーション	1	環境に起因する健康リスク、発がん性有害化学物質の規制に関するリスクの概念の導入、許容リスクレベルについて講述する。公害問題の解決とは異なり、これからの環境問題の解決に重要となるリスクコミュニケーションについても講述する。

【教科書】プリントおよび授業中に紹介する

【参考書】環境白書（環境省）、授業中に適宜紹介する

【予備知識】特に必要はない

【その他】評価は、出席点及び筆記試験で行う。

物理探査学

31350

Geophysical Prospecting

【配当学年】2年後期

【担当者】芦田・松岡(俊)・菅野・三ヶ田

【内 容】地下を診る技術である各種の物理探査法について、その探査原理、データ取得技術、データ処理技術および解釈方法について講述するとともに、エネルギー・資源分野、地盤工学分野、土木工学分野への適用についても紹介する。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
物理探査とは	4	
データ処理技術	4	
データ解析技術	2	
エネルギー・資源分野への適用	2	
地盤工学分野への適用	1	
土木分野への適用	1	

【参 考 書】佐々・芦田・菅野：建設・防災技術者のための物理探査（森北出版）

測量学及び実習

30400

Surveying and Field Practice

【配当学年】3年前期

【担当者】田村（正）・小野（徹）・菊池・出村・柄谷・畑山

【内 容】測量学に関する講義と実習を行う。講義では様々な測量技術、測量機器の仕組み、観測データにおける誤差の扱いと調整方法について講述する。実習では、測量機器を用いて野外で測量を行い、測量機器の扱いや測量の方法を学ぶ。さらに、得られたデータを整理して調整計算を行うことで、観測情報についての理解を深める。成績評価は、期末試験、実習レポート、出席状況等を総合的に勘案して行う。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
測量学概説	3	測量学の目的、歴史、内容について概説するとともに、測量技術の適用事例や最新の測量技術動向を紹介する。また、実習の予定と注意点について説明する。さらに、測量における技術者倫理について解説する。
距離測量と角測量	4	測量技術の基本である距離測量と角測量の方法を学ぶ。また、実習を通して測量機器の設置方法(整準、求心)とセオドライトを用いた角測量技術を体得する。
基準点測量	5	基準点測量のための測量計画について概説するとともに、代表的な基準点測量法である三角測量、トラバース測量について詳説し、野外における実習を実施する。
水準測量	3	測点の標高を定めるための水準測量の方法とデータの調整法について説明し、野外における実習を行う。
平板測量と地形測量	4	測量区域の細部を明らかにするための平板測量、地形測量の方法について述べるとともに、その成果物である地形図の特性、測量と空間の認識との関連性について解説する。あわせて実習を行う。
誤差論	2	誤差に関する基本的な概念を説明するとともに、誤差伝播の法則、一般算術平均値の考え方を説明する。
最小2乗法	7	測量データの処理の基本となる最小2乗法の考え方とその計算方法について演習を交えながら習熟させる。
調整計算	4	三角測量、トラバース測量データの調整法を解説し、実習で得られたデータを用いた計算演習、コンピュータプログラミングによる厳密計算を行う。
写真測量	4	写真測量の概要を説明するとともに、実体視、反射実体鏡による航空写真の判読に関する実習を行う。
GPS 測量	3	GPS の原理ならびに GPS を使った測量技術について講義する。

【教科書】森忠次著：改訂版 測量学1 基礎編(丸善)

【予備知識】線形代数学、数理統計学

【その他】オフィスアワーは特に設けない。実習レポートなどの提出先については、第1回の講義の際に配布する予定表及びホームページに記載する。

連続体の力学

31170

Continuum Mechanics

【配当学年】3年前期

【担当者】岡二三生・細田 尚

【内 容】テンソル解析の基礎，連続体の変形と運動および保存法則の定式化，固体および流体の構成則の考え方，初期値・境界値問題の解法と変分原理などの基本的内容を講述の後，地球工学科に関連する応用例として，弾性体の変形解析と波動の伝播や流体力学の応用問題について解説する．成績評価は，期末試験と授業中に行う小テスト等を総合的に勘案して行う．(おおよそ期末試験 90 点，小テスト 10 点で合計 100 点満点)

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
ベクトル・テンソル解析の基本的事項	3	ベクトル・テンソルの定義，積分定理，移動する体積の時間微分公式，共変・反変基底ベクトルとテンソルのダイアディック表現および成分の変換則などの連続体力学を理解するために必要となる基本的事項を説明する．
応力とひずみ，変形速度テンソル	2	連続体の運動と変形を記述するための基本的事項として，応力テンソル，ひずみ及び変形速度テンソルの定義とそれらが満たすべき条件（ひずみの適合条件），座標変換に対する各テンソル成分の変換則や不変量などについて説明する．
保存則の数学的表現	2	移動する連続体の領域内での質量，運動量，角運動量，熱力学の第一，第二法則の数学的表現を説明し，局所的な保存則の表示を導く．
固体・流体の構成則	3	連続体の構成則が満たすべき条件と弾性体，粘弾性体および粘性流体の構成則を示し，単純な場での具体的応用例を説明する．
変分原理と有限要素法	2	実際の連続体の運動と変形の境界値問題を解くための変分原理とその代表的解法としての有限要素法について述べ，その具体例を示す．
固体・流体力学の具体的応用例	3	弾性体の変形解析と波動の伝播，遅い粘性流とストークスの抵抗法則など基本的な現象を題材として，連続体力学の具体的な応用について講述する．

【教科書】講義資料としてプリントを配布する．

【参考書】Y. C. ファン著（大橋・村上・神谷共訳） 連続体の力学入門，培風館

【予備知識】1，2 回生時に学ぶ微分積分，線形代数の基礎知識

【その他】オフィスアワーは特に設けないが，質問などは必要に応じて各教官室で対応する．(岡 432 号室，細田 216 号室)

工業数学 B2 (土木工学コース)

20610

Engineering Mathematics B2

【配当学年】3 年前期 (土木工学コース) 【担当者】田村・西村 (直)

【内 容】フーリエ解析と、その応用としての偏微分方程式の解法を取り扱う。周期関数に対するフーリエ級数、非周期可積分関数に対するフーリエ変換、及びそれらの特性に習熟し、種々の工学・数理物理学の問題への応用力を養うことを目的とする。また、現代的な取扱や、数値解析との関連についても講述する。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
序	1	フーリエ解析とは何か、どのような応用があるのかなど解説し、必要な予備知識を整理する。
フーリエ級数	3	周期関数は三角関数の無限級数に展開され、これをフーリエ級数と呼ぶ。ここではフーリエ級数の収束等に関する理論的な話題を取り上げるとともに、具体的な計算も行なって理解を深める。
フーリエ変換	4	非周期関数のフーリエ解析にはフーリエ変換が登場する。ここでは、まず、あるクラスに属する関数は実際にフーリエ積分で表される事を証明した上で、フーリエ変換の種々の性質を示す。更に、具体例を通して計算力を養う。また、ラプラス変換をフーリエ変換の立場から論ずる。
偏微分方程式への応用	4 ~ 6	2 階の偏微分方程式 (Laplace 方程式、波動方程式、熱方程式等) の (初期値) 境界値問題の解を具体的に構成する際のフーリエ級数およびフーリエ変換の適用例を紹介する。
数値フーリエ解析	1	計算機を用いてフーリエ解析を行なうための基本的な手法である高速フーリエ変換 (FFT) について解説する。

【予備知識】微分積分学、線形代数学、工業数学 B1 (関数論)。

【そ の 他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。

工業数学 B2 (資源工学コース)

20611

Engineering Mathematics B2

【配当学年】3 年前期 (資源工学コース) 【担当者】宅田・菅野・三ヶ田

【内 容】連立 1 次方程式の数値解法、フーリエ変換、ラプラス変換、補間と近似、偏微分方程式の数値解法についての基礎理論。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
連立 1 次方程式と非線形方程式の解法	3	連立 1 次方程式の解法のうち、各種の直接法と反復法、直説法と反復法の比較およびこれらの解法の応用について説明する。また、非線形方程式の解法のうち、ニュートン・ラフソン法および 2 分法に関して、その応用と解法について講述する。
補間と近似	2	離散的に存在するデータを多項式を用いて近似する方法、すなわち関数の多項式近似について述べる。具体的には、ラグランジュの補間法など、いくつかの手法を解説する。
フーリエ変換	2	フーリエ変換の原理、法則および実例について講述する。
ラプラス変換	2	ラプラス変換の原理、法則および実例について講述する。
偏微分方程式の数値解法	4	ラプラス方程式に関して変数分離によるその一般解および有限差分法について解説する。さらに、拡散方程式の差分法について解説する。

【参 考 書】小門・八田：数値計算法（森北出版）

【予備知識】総合人間学部開講の微分積分学、線形代数学および地球工学基礎数理、工業数学 B1 を前提としている。

【そ の 他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。

構造力学 II 及び演習

31640

Structural Mechanics II and Exercises

【配当学年】3 年前期

【担当者】田村・松本(勝)・五十嵐・宇都宮・西村(直)

【内容】構造解析の基礎理論として、仕事・エネルギー・仮想仕事および補仮想仕事の原理、仮想変位および仮想力の原理、相反定理について講述する。さらに、連続ばり、ラーメン、曲線ばり、アーチ、不静定トラス、格子構造等の不静定構造物の解法を解説する。また、コンピュータを利用した構造解析法として、トラス、はり、ラーメン構造を対象としたマトリクス構造解析の基礎について概説し、剛性方程式の誘導とその解法について説明する。成績評価は、期末試験、中間試験、レポート等を総合的に勘案して行う。

【授業計画】

項目	回数	内容説明
仕事・エネルギーと仮想仕事	18	基礎事項 仕事・補仕事およびエネルギー カスティリアノの定理と最小仕事の原理 仮想仕事と補仮想仕事 仮想仕事(変位)の原理 補仮想仕事(力)の原理 弾性荷重法 相反定理
不静定構造物の解法	4	不静定次数と自由度 弾性方程式法 たわみ角法 3 連モーメント法
マトリクス構造解析の基礎	2	つりあい式・変位適合条件式のマトリクス表示 剛性方程式の数値的解法 平面トラスの解析 平面骨組みの解析
構造安定論	2	安定の判定条件 剛体-ばね系の変形 弾性はり-柱の変形
構造各論	3	連続ばり・ラーメン・曲線ばり アーチ 不静定トラス 格子構造
構造解析技術者倫理	1	構造解析の適用範囲、解析精度・信頼性等、構造物の設計・安全性に関わる構造解析技術者倫理に関する事例について解説する。

【教科書】クラス担当教員が初回講義時に伝える。

【参考書】「構造力学 II」松本勝・渡邊英一・白土博通・杉浦邦征・五十嵐晃・宇都宮智昭・高橋良和著、丸善

【予備知識】微分積分学 A・B、線形代数学 A・B、構造力学 I 及び演習の知識を前提とする。

【その他】5 クラスに分け、クラス毎に定められた教員により同じ時間帯に授業を行う。オフィスアワーは、各教員別に設定し、時間、コンタクト方法等は初回講義時に伝える。

材料学

30240

Construction Materials

【配当学年】3 年前期

【担当者】宮川豊章・服部篤史

【内 容】構造用材料を対象として、材料一般のミクロな構造からマクロな物性の取扱いについて略述し、さらに、コンクリート、鋼材、高分子材料、複合材料などの主要構造材料の力学的性質、化学的性質、取扱い、試験方法を中心とした各論を講述する。

成績評価は、期末試験、レポート等を総合的に勘案して行う (期末試験 80 点、レポート等 20 点、合計 100 点満点)。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
材料概論	1	材料の分類、土木材料の歴史、技術者倫理に関連する事例解説、トピックス
結晶構造	1	結晶質、非結晶質、結晶結合、結晶構造、欠陥、力学的特性、すべり、転位
金属材料	1	鉄系金属、高炉、精錬、高炉スラグ、変態、熱処理、非鉄金属、金属系新素材
腐食・防食	1	耐久性、腐食反応、劣化メカニズム、中性化、塩害、第 1 種防食法、第 2 種防食法
セメント	1	セメントの種類、化学成分、組成化合物、水和反応、水和熱、低アルカリ型セメント、混合セメント
混和材料	1	混和剤、減水剤、AE 剤、凍害、混和材、ボゾラン反応、潜在水硬性、高性能減水剤
骨材・水	1	含水状態、塩化物イオン、塩化物総量規制、アルカリ骨材反応、アルカリ量
フレッシュコンクリート	1	ワーカビリティ、レオロジー、コンシステンシー、材料分離、配合設計
硬化コンクリート	2	圧縮強度、水セメント比、引張強度、曲げ強度、耐久性、試験方法
コンクリートの非破壊試験	1	表面硬度法、超音波法、併用法、放射線透過法、赤外線法、自然電位法、分極抵抗法
各種コンクリート	1	繊維補強コンクリート、MDF セメント、高流動コンクリート、無機系新素材
歴青材料・高分子材料	1	アスファルト、ストレートアルファルト、ブローンアスファルト、樹脂、ゴム、表面保護工、繊維、連続繊維補強材、高分子系ポリマーコンクリート、新素材
期末試験	1	定期試験期間中に行う。

【教科書】岡田清、明石外世樹、小柳洽共編：土木材料学 (国民科学社)

【参考書】藤原忠司、長谷川寿夫、宮川豊章、河井徹編著：コンクリートのはなし I・II (技報堂出版)

日本コンクリート工学協会：コンクリート便覧 (技報堂出版)

【予備知識】総合人間学部開講の、基礎物理化学を履修しておくことが望ましい。

【その他】オフィスアワーは特に設けない。随時、各教員室 (宮川 410 号室、服部 412 号室、いずれも工学部 5 号館) を訪れること。

波動・振動学

31110

Dynamics of Soil and Structures

【配当学年】3年後期

【担当者】五十嵐・清野

【内 容】土木分野における振動の基礎理論と実際への適用について講述する。成績評価は、平常点と期末試験の点数を総合的に勘案して行う。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
構造物の振動現象および運動方程式	1	土木構造物においてみられる振動現象とその工学的重要性について述べる。また、慣性力を考慮した力のつりあい式が運動方程式であることを示す。構造力学及び微分方程式の基礎知識が必要。
自由振動	1	1自由度系の固有振動数と減衰定数を定義し、自由振動波形を求める。
強制振動	1	調和波外力による共振曲線、位相曲線を求め、周波数応答特性を明らかにする。
振動計の原理	1	変位計、速度計、加速度計の原理について述べる。
不規則応答	2	不規則な地震外力に対する応答の評価法と応答スペクトルの概念について述べる。
非線形振動	1	弾塑性復元力特性を有する構造物の基本的動的応答特性について述べる。
2自由度系の振動	1	2自由度系の運動方程式から自由振動の解を導き、固有振動モードの概念を把握する。
固有振動数と固有モード	1	多自由度振動系の固有振動数、固有振動モードと固有値解析との関係について説明する。線形代数の基礎知識が必要。
多自由度系の減衰自由振動	1	減衰力が存在する場合の固有振動モードの適用について述べる。
多自由度系の強制・不規則振動	1	モード解析法によって、調和波外力や不規則外力に対する応答を評価する手法について述べる。
各種の制振機構	1	受動的、能動的ならびにハイブリッド型制振機構の原理について概説する。
連続体の振動	1	連続体におけるせん断振動、曲げ振動と次元波動の方程式と解法について述べる。

【予備知識】微分積分学、線形代数学、構造力学Ⅰ及び演習、構造力学Ⅱ及び演習

水文学基礎

30300

Fundamentals of Hydrology

【配当学年】3年前期

【担当者】池淵・椎葉・寶・立川

【内 容】地球表面付近の水の循環過程，すなわち，蒸発散，降雨，降雪，遮断，浸透，地表面および土壌表層・地中での雨水流動，河道網での流れなどの現象を理解し，それを適切にモデル化していくための方法を講述して，降水と流出の予測，河川流域管理のための基礎を明らかにする。成績は，期末試験，レポート等を総合的に勘案して評価する。期末試験 70 点，レポート及び小試験等で 30 点，合計 100 点満点とする。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
水文学とは何か	1	水文学の学問領域，地球工学との関わり，その意義について解説する。また，技術者倫理に関する事項を解説する。
地球上の水の分布と放射	1	グローバルなスケールでの水の分布，放射を含めたエネルギーの伝達・循環の機構を解説する。
降水機構と観測	1	降水機構を概説し，アメダス，レーダ雨量観測法を述べる。
計画降雨	1	水文統計学について概説し，土木構造物の設計量の一つである計画降雨の決定法を解説する。
降雨遮断・浸透	1	樹木による降水の遮断，凹地貯留，雨水浸透の機構を解説する。
斜面流出機構	2	kinematic wave モデルを誘導しその解析法を紹介し，kinematic wave モデルを基礎とした斜面流出機構のモデル化について解説する。
蒸発散	2	蒸発散現象を理解するための大気境界層の理論，蒸発散量推定のための理論・経験公式を解説する。
融雪機構	1	融雪機構を解説し，融雪流出のモデル化の方法を述べる。
河道網系のモデル化	1	河道網系の雨水の流出を追跡する方法を解説する。
降雨・流出予測	1	レーダ雨量計データを用いた降雨予測手法，カルマン・フィルターを用いた実時間流出予測手法を解説する。
流出モデル一般	1	わが国及び外国でよく用いられている流出モデルを解説する。また，河川流域管理に関連する技術者倫理に関する事例について解説する。

【教科書】教科書は使用しないが，毎回の講義ごとに資料を配布し，それに基づいて講義を行う。

【参考書】水文・水資源ハンドブック（朝倉書店）

【予備知識】確率統計解析及び演習（2回生前期）、水理学及び演習（2回生後期）を履修していることが望ましい。

【その他】オフィスアワーは設けない。質問などがある場合は，本部教員（椎葉）については工学部 5 号館 212 室を訪れること。防災研究所教官（池淵・寶・立川）については，講義時にコンタクト方法を伝える。

水理水工学

31360

hydraulics and hydrodynamics

【配当学年】3年前期

【担当者】瀬津・中北・牛島

【内 容】水工学における流体力学的側面のうち、流れの基礎方程式、境界層理論および乱流理論の初歩をわかりやすく講述する。また、大気中の水の流れを理解するための基礎を様々の観点から講述する。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
概説	1	水理学・流体力学の発展史を概説する。
境界層理論の基礎	2	ポテンシャル流理論の破綻から境界層理論の出現と確立、境界層近似等を講述する。
境界層理論の応用	1	境界層理論の水工学への応用を講述する。
流体力	1	物体に働く流体力、せん断応力を講述する。
乱流理論の入門	1	乱流理論の初歩を平易に講述し、非線形力学のおもしろさを考える。
水文気象学基礎	2	鉛直方向の大気安定・不安定から降雨生成の基礎に至る、水蒸気を含む大気基礎を講述する。
大気境界層入門	1	地球温暖化と関連して重要な大気境界層の基礎、特に水面や陸面と大気との間の運動量、熱、水蒸気の交換について観測例を交えて講述する。
回転流体力学入門	1	低気圧発生理論の基礎等、回転する地球をめぐる大気の力学（気象力学）の基礎を講述する。
管路・開水路の非定常流	4	管路非定常流の基礎方程式を導き、その応用例を解説する。また各種の保存則から開水路非定常流の基礎方程式を誘導し、特性曲線法や有限体積法を用いてダム破壊流れや洪水流の解析に応用する。さらに、近年行われている大規模なコンピュータを用いる自由水面流れの3次元計算法とその応用例も紹介する。

【教科書】瀬津家久・富永晃宏「水理学」、朝倉書店、2000。

【参考書】1. 参考書：瀬津家久「水理学・流体力学」、朝倉書店、1995、2. 小倉義光「一般気象学」（東京大学出版会）

【予備知識】水理学の履習を前提とする。

【その他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。

海岸環境工学

31370

Coastal Environmental Engineering

【配当学年】3 年前期

【担当者】酒井（哲），後藤

【内 容】最初に最近の海岸に関する社会問題について技術者倫理を含めて紹介する。ついで、海浜変形、流砂、漂砂、海浜流、海の波の変形、予知、不規則波に関して、次にノリ不作問題の話題から海岸生態系に関して、さらに関西国際空港建設の話題から、波の力、津波、高潮、潮汐、海底地盤の波浪応答に関して述べる。成績評価は平常点と期末試験によって行う。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
話題1	1	海岸に関する最近の社会問題を技術者倫理を含めて紹介する。
海浜変形	1	海岸侵食など海浜変形の実態について述べる。
漂砂（移動床水理）、海浜変形機構	3	海浜変形を起こす海底土砂の移動機構および海浜変形機構を説明する。
海浜流	1	海の波によって海岸付近で発生する沿岸流について述べる。
伝播に伴う海の波の変形	2	海浜流を引き起こす海岸付近での海の波の水深変化による変形機構を説明する。
海の波の予知、不規則波	1	海岸にやってくる海の波が風によって発生、発達する機構を説明するとともに、不規則な波の工学的扱いについて述べる。
海岸生態系	1	有明海でのノリ不作問題を例として、海域環境問題を紹介する。海域環境問題のうち、特に海岸での生態系と開発行為の関連及び人工干潟、人工磯浜について述べる。
構造物に働く波の力	1	関西国際空港建設事業を紹介して、設計で考慮しなければならない外力の重要性を述べる。特に海の波が構造物に及ぼす力に関して述べる。
構造物による海の波の変形、津波、高潮、潮汐	1	構造物による波の変形、構造物に関係する他の外力として津波、高潮、潮汐に関して概説する。
海底地盤の波浪応答	1	海の波によって海底地盤がどのような応答をし、その支持力にどのような影響を与えるかを概説する。

【教科書】酒井哲郎著：海岸工学入門（森北出版）、必要に応じて資料配布

【参考書】なし

【予備知識】水理学及び演習（2年後期）を履修していることが望ましい

【その他】オフィスアワーは特に設けないが、担当教員室（工学部5号館220、222室）を訪れること

土質力学 II 及び演習

31070

Soil Mechanics II and Exercises

【配当学年】3 年前期

【担当者】井合・大津・岡・関口・木村・西山

【内 容】土の圧密現象、地盤内応力、土の破壊理論、構造物に作用する土圧、基礎と支持力、斜面安定、地盤の振動特性の各問題について、これらに対する数理的な取り扱い方法について説明する。また、演習問題を用いて各種地盤構造物の基礎的な設計手法の理解をはかる。成績評価は、期末試験、中間試験、レポート等を総合的に勘案して行う。(期末試験 70 点、中間試験+レポート+小試験等で 30 点、合計 100 点満点)

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
圧密	2	土の圧密現象の数理解析手法、粘土の圧密特性を測定する試験法、粘土地盤の地盤改良原理について、演習問題を用いて説明する。
地盤内応力	1	各種荷重が地表面に作用する際の地盤内応力伝播の弾性解について、演習問題を用いて講述する。
変形・強度と破壊理論	2	土のせん断強度とそれに及ぼす間隙水の影響について説明し、三軸試験と有効応力経路について詳述する。さらに、演習問題を利用して土の破壊理論についての理解をはかる。
土圧	2	擁壁等の地盤構造物にかかる土圧の発生機構とそれを解析的に取り扱う手法について演習問題を用いて説明する。
中間試験	0.5	
基礎と支持力	1.5	構造物基礎の構造と分類、ならびに基礎を設計する際の基本的考え方を講述した後、フーチングに代表される浅い基礎と杭に代表される深い基礎それぞれの支持力の計算手法について演習問題を用いて説明する。
斜面安定	2	斜面破壊の発生機構を解説するとともに、安定した斜面を設計するための解析手法について演習問題を用いて説明する。
地盤の振動特性	1	地震時の地盤振動特性と地盤の液状化現象の発生機構について解説し、地震時の地盤構造物の被害について事例を用いて説明を行う。
地盤と社会基盤	1	地盤工学全般に関して総括的な解説を行う。また、技術者倫理に関連する事例について解説する。

【教科書】岡二三生著：土質力学（朝倉書店）。演習問題集（2 回生後期の土質力学 I 及び演習で配布したものを用いる）。その他、必要に応じて印刷物を配布。

【参考書】柴田徹、関口秀雄共著：地盤の支持力（鹿島出版会）、岡二三生著：土質力学演習（森北出版）

【予備知識】土質力学 I 及び演習（2 回生後期）

【その他】オフィスアワーは特に設けない。本部教員については各教員室（岡 D432 室、木村 D154 室、西山 D354 室、いずれも工学部 5 号館）を訪れること。本部以外の教員（井合・大津・関口）については、講義時にコンタクト方法を伝える。

土質実験及び演習

31380

Experiments on Soil Mechanics and Exercises

【配当学年】3年前期

【担当者】勝見・岸田・木村・小高・澤田（純）・西山・三村・稲積・乾・上原・木元・小林（俊）・飛田・本田

【内 容】各種地盤構造物を設計する際に必要となる地盤ならびに土質に関する情報を得るための調査・試験法を実習により習得させる。実験内容は、土質力学Ⅰ及び演習（2年後期）を復習する形で行われるとともに、土質力学Ⅱ及び演習（3年前期）とも一部連動して行われる。また、平行して土質力学の演習も行い、より深い理解を促す。成績評価は、レポートと平常点により行う。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
ガイダンス・講義： 土質実験概論	1	土質実験の必要性、背景となる理論体系、データの利用法等について、実際の土構造物の設計等を例にして説明を行う。
実験： 物理試験	1	塑性・液性限界試験による粘土のコンシステンシー特性の測定を行い、土の物理特性の評価法に関する理解をはかる。
実験： 締固め試験	1	突固めによる土の締固め試験を行い、土の締固め特性、ならびに試験結果の実施工への応用についての理解をはかる。
実験： 透水試験・透水模 型実験	1	定水位透水試験を行うことにより、土中の水の流れがダルシーの法則に従うことを確認し、土の透水係数の測定法の理解をはかる。また、地盤内浸透に関する模型実験を行い、浸透水の流れに関して可視化を通して理解を深める。
実験： 圧密試験	1	実地盤から採取した自然堆積粘土を用いて標準圧密試験を行い、粘土の圧密特性を確認するとともに、粘土地盤の圧密沈下予測に必要な土質パラメータの計測手法を習熟させる。
実験： 一軸圧縮試験	1	自然堆積粘土試料を用いた一軸圧縮試験を行い、土のせん断破壊現象の観察、ならびに試験より得られる土質パラメータの意味の考察を行う。
実験： 一面せん断試験	1	砂の一面せん断試験を行い、土の強度の拘束圧依存性、ならびに破壊基準として摩擦則が成立することを確認させる。
実験： 地盤調査	0.5	標準貫入試験と弾性波探査試験を実施し、測定方法の理解をはかるとともに試験から得られる地盤パラメータの意味とその地盤構造物の設計・施工への応用について考察させる。
実験： 遠心模型実験	0.5	遠心模型実験装置を用い、遠心場での再現される実スケール地盤の破壊現象についての理解を深める。
演習問題	4	土構造物の設計に際して行われる土質実験とそこから得られる土質パラメータの設計上での利用方法を理解するための演習問題を行うことにより、土質実験の位置づけを明確にする。
特別講演	1	土質実験の現場適用事例等の講演により、土質実験の位置づけについて理解と認識を深める。

【教科書】地盤工学会編：土質試験－基本と手引き－（初回の講義・ガイダンスで販売する）。その他、必要に応じて印刷物を配布。

【参考書】地盤工学会編：土の試験の方法と解説

【予備知識】土質力学Ⅰ及び演習（2回生後期）

土質力学Ⅱ及び演習（3回生前期）とは一部連動して行う。

【その他】オフィスアワーは特に設けない。本部教員については各教員室を訪れること。防災研究所教員については、講義時にコンタクト方法を伝える。

社会システム計画論

30440

Planning and Management of Social Systems

【配当学年】3年後期

【担当者】岡田・萩原

【内 容】地球工学が対象とする社会基盤整備計画・マネジメントの役割とこれをシステムズアプローチにより科学的に支援する方法について講述する。また実例に即してグループ学習やフィールドワークも交えて、受講者の理解を深める。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
概 論	1	計画の対象としての社会システム, 社会基盤整備の目的, プランナーの役割・使命と計画者の技術者倫理
社会基盤整備計画	1	インフラストラクチャ・社会資本・社会基盤・公共財の特徴と役割, 社会システムの整備状況
計画プロセスとシステム分析	2	計画プロセス, システム分析の循環過程, 計画数理とシステム分析技法, 経済学モデル, 社会学的アプローチ
問題の明確化	4	問題の明確化の目的, K J 法, I S M 法, グループ学習
調 査 法	2	調査の目的, 社会調査法, 多変量解析技法, フィールドワーク
予 測 法	1	予測の目的, 予測技法
設 計 法	1	設計の目的, 代替案の設計, 数理分析的アプローチ
ま と め	1	評価の目的, 評価技法の概要, 社会システム計画の今後の課題

【教科書】土木計画システム分析-現象分析編- (森北出版)

【参考書】都市環境と水辺計画 (勁草書房)

【予備知識】確率統計学の基礎, 数理分析の基礎

【その他】成績評価は出席を前提に, レポート (40%) と定期試験 (60%) の割合で行う。オフィスアワーは特に設けないが、講義時に教員へのコンタクト方法を伝える。

基礎環境工学 II

31390

Fundamental Environmental Engineering II

【配当学年】3 回生前期

【担当者】森澤、新苗、福中

【内 容】 地圏環境の管理に焦点を絞り、環境基準等による管理体制、わが国における汚染の歴史と現状、土壌・地下水の汚染機構とその特色、汚染評価のためのモデル、汚染の調査法や土壌修復技術について講述する。各種浄化修復技術について実際の浄化修復事例を紹介しながら、その原理、特徴および問題点について解説する。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
地圏環境管理の課題	1	わが国の土壌・地下水汚染の歴史的経緯と現況について紹介すると共に、これらの問題にわが国がどのように対処してきたか、環境基準値の設定や法的規制の現況、将来の課題等について紹介する。
土壌・地下水の汚染機構とその特色	2	土壌・地下水汚染の特色をその支配機構の視点から整理する。土壌汚染の機構と地下水汚染の機構の相違を説明した後、主として地下水汚染が有する特色を整理する。主要な汚染の支配機構別に、有害物質の輸送特性を整理する。
汚染評価モデル	3	浅い地層および地下水層を対象に、地層の特性や地下水の存在形態など、地圏環境を工学的に理解する上で必要な地層・地下水に関連する基本量について解説する。地下水汚染を評価・解析するための数学モデル（移流分散モデル）を誘導し、その解法について講述する。市街地土壌を対象に、その汚染を解析・評価する数学モデル（確率モデル）について講述する。
土壌・地下水汚染の調査と対策	1	土壌汚染対策法に基づく土壌汚染の調査・分析法及び汚染対策の特色や問題点を技術的な側面から解説する。
土壌・地下水汚染の浄化修復技術	3	重金属等および揮発性有機化合物で汚染された土壌・地下水の原位置浄化修復技術、オンサイト／オフサイト方式による浄化修復技術の原理、特徴および問題点について解説する。
移動現象論への展開	3	地圏環境の有害物質による汚染のみでなく、熱や運動量の輸送現象を含めて統一的に評価・解析する工学的方法について概説すると共に、実現象への適用例を示し、地圏環境管理のための新しい方法について講述する。

【参考書】森澤眞輔編著：土壌圏の管理技術、コロナ社（2002）

【その他】講義への出席状況、レポートおよび定期試験の結果に応じて成績を判定する。当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。

大気・地球環境工学

31400

Atmospheric and Global Environmental Engineering

【配当学年】3年前期

【担当者】松岡 譲・藤原健史

【内 容】大気汚染の歴史、その原因と防止の技術、大気中における汚染物質の拡散及び化学的変化のメカニズムなどについて基礎的知見を講述する。次いで、地球環境問題に関し、その変遷を述べ、地球温暖化問題やオゾン層破壊などを紹介する。さらに、これらに密接な関わりを持つ問題として、エネルギー消費と環境問題の関わり、地球規模水問題を取り上げ、こうした地球規模の諸問題に対処するための国際機関、政府などの役割について論ずる。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
大気汚染問題	2	世界、日本における大気汚染の歴史的事件、現在の大気汚染問題、大気汚染物質の健康影響、大気汚染防止に関する法律
大気汚染の防止技術	1	大気汚染物質の排出源と排出レベル、発生抑制技術と排ガス処理装置
大気汚染のメカニズム	1	煙の上昇、拡散、反応、沈着の各現象とモデル
大気環境アセスメント	2	大気環境アセスメントの手法、具体例
地球環境問題の見取り図	1	地球環境の変化、ストックホルム会議からヨハネスブルグサミットへ
地球温暖化問題	2	地球温暖化のメカニズム、京都議定書、温暖化対策
その他の地球環境問題	1	オゾン層破壊、酸性雨、海洋汚染、開発途上国の環境問題
エネルギー消費と環境問題の関わり	1	人類とエネルギー、エネルギー消費、ライフサイクルアセスメント
地球規模水問題	1	地球規模の水収支、水資源と消費、安全な水供給と衛生施設
地球環境保全のための国際機関、政府などの役割	1	環境ガバナンス、政府、企業、人々の役割

【教科書】プリントを配布する

【参考書】公害防止の技術と法規編集委員会：公害防止の技術と法規（大気編）（産業環境管理協会）、地球環境委員会：地球環境キーワード辞典（中央法規）

【予備知識】特に必要としない

【その他】成績評価は理解度を確かめる毎回のレポートによって行う

水質学

30530

Water Quality

【配当学年】3年前期

【担当者】藤井（滋）・津野・山田（春）

【内 容】より快適な水環境を保全し、創造し、健全な社会生活を営む上で、利水の立場から水質をどのように把握し、どのように表示するか、また制御可能かどうかなどが問題となる。本講義では、水の物性並びに利水目標を勘案しつつ、活用されている水の質を示す指標群を列挙し、それぞれのもつ意義や意味を論じ、測定方法、指標としての限界や問題点を講述する。成績は、原則、期末試験の結果で評価する。

【授業計画】

項目	回数	内 容 説 明
水質と指標	1	局所水域あるいは地球規模の広域水域の汚濁問題など水環境における水の質の指標群を、水の物性、環境基準、各種利水目的の水質基準などから概観する。
物理指標群	2	主として物理的操作によって把握される指標群、例えば水温、濁度、密度、SS、VSS、吸光度、透明度などについて概説する。
化学指標群	4	化学的分析によって定量される指標群で、DO、BOD、COD、T-N、T-P、アルカリ度あるいは硬度、ミネラルなどを始め、陽イオン・陰イオンについて講述する。
生物指標群	4	人の健康に係わる水系伝染病関連指標や自然生態系での細菌、植物プラクトン、並びに動物プランクトンなどの働きを口述し、それぞれの指標と意味を論ずる。また湖沼・海域の富栄養化に係わる指標群について論述する。
有毒・有害物	2	急性毒性並びに慢性毒性を生じさせる物質群について、毒性自体の測定法並びに各物質の毒性特性を概説する。

【教科書】宗宮功・津野洋著「環境水質学」（コロナ社）

【予備知識】環境生物・化学（2年後期）を履修していることが望ましい。

【その他】オフィスアワーは特にもうけない。環境質制御研究センター教員（藤井）については、講義時にコンタクト方法を教える。本部教員については各教員室（津野 230 号室、山田 232 号室、いずれも工学部 5 号館）を訪れること。

【配当学年】3年前期

【担当者】武田・高岡

【内 容】この講義では、環境保全に果たす環境装置の位置づけおよびこれに共通する工学的的手法について述べる。流体の輸送、伝熱などの移動現象の取扱から粒子状物質の沈降やろ過、脱水、汚泥、廃棄物の乾燥や燃焼、ガスの吸収、吸着などの単位操作の原理と応用について講述し、水、固体、ガスの各廃棄物処理装置の設計原理と設計法を説明する。成績評価は、期末試験、小試験、レポート等を総合的に勘案して行う。(期末試験 60 点、小試験+レポート等で 40 点、合計 100 点満点)

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
序論	1	環境施設に関連した過去の事故例をもとに、技術者倫理について解説する。次いでご超 楡澆鯨柔 垢訝確盟犧適肇轡好 膳爐粒詰廚鮫劫憂ぜ、い 単位系と環境衛生工学で用いる量の扱 いについて講述する。
流体の輸送と 流量の測定	2	環境装置で扱う流体輸送装置の原理と設計について述べ、管 路流量の測定ならびにばいじん測定について述べる。
粒子状物質の 扱い	2	ばいじん、汚泥などの粒子状物質の性質を明らかにし、濃縮、 ろ過、脱水、ばいじん除去装置の原理と設計について述べる。
水分を含んだ 空気の性質	2	湿り空気の諸性質について述べ湿度図表の使い方に習熟する。
熱の移動	2	伝熱の理論を説明し、環境装置における応用を述べる。
汚泥乾燥装置・ 焼却装置	2	汚泥乾燥装置・焼却装置の計画と設計について述べる。
排ガス処理装 置	2	気液平衡・気固平衡理論を述べ、硫酸化物等の排ガス吸収・ 吸着装置の設計と実際について述べる。

【教科書】なし

【参考書】平岡正勝、田中幹也著：新版 移動現象論（朝倉書店）水科篤郎、桐栄良三編： 化学工学概論（産業図書）

【予備知識】移動現象論、水理学及び演習を前提としている。

【その他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。オフィスアワーは特に設けない。メールまたは電話で連絡の上、各教員室（武田 318 号室、高岡 322 号室、いずれも工学部 5 号館）を訪れること。

放射線衛生工学

30570

Radiological Health Engineering

【配当学年】3年後期

【担当者】森澤

【内 容】放射線の性質，放射線と物質との相互作用，放射線が人体及び生物に及ぼす影響，被曝線量限度，放射線の遮蔽，放射線被曝源，放射性廃棄物の処理と処分，放射線防護の方法，放射線環境モニタリング，環境放射能とその影響評価法等に関する工学的諸問題について講述する。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
放射線と放射能	2	放射線衛生工学の目的と体系，定義，講義内容の構成，放射線関連の今日的課題について概説する。また，原子核が崩壊し放射線を放出する機構，原子核の安定性，放射線の種類とエネルギー，崩壊系列等について講述する。
放射線と物質の相互作用	2	α 線， β 線， γ 線と物質の相互作用の機構と特性，原子核反応，崩壊関，放射化分析の原理等について講述する。また， γ 線の遮蔽，遮蔽材の種類と厚さ，電離放射線による外部被曝線量評価の方法等について講述する。
放射線の生物・人体影響	2	放射線が生物に与える影響の機構をDNA，細胞，固体レベルから解説する。人体に対する放射線影響を分類整理し，放射線防護の考え方，被曝限度値とリスク，被曝限度値設定の方法，法律による規制値等について講述する。
放射線被曝源と放射性廃棄物管理	2	人間が放射線を被曝する源を整理し，被曝の特色と程度，被曝の形態，被曝源の相対的重要度などについて講述する。将来的に人々の主要な被曝源になる可能性がある核燃料サイクル関連の放射性廃棄物の発生量と貯蔵量，処理と処分の方法，各国及び日本の廃棄物管理政策，将来の見通し等について講述する。
放射線の管理と防護	2	放射線障害の歴史，放射線疫学の方法，放射線防護のために使用される指標とそれらの意味，放射線管理の枠組み，放射線管理の指針，個人及び空間の放射線管理，管理用機器等について講述する。
環境放射能管理	3	放射線環境モニタリングの目標，安全評価の基本的考え方，原子力施設周辺のモニタリングの実態，食品等を介しての内部被曝線量を評価する方法，簡易被曝線量評価法について講述する。放射性フォールアウトの環境内循環を評価する事例を紹介し，環境中での放射性核種の動態を解析・評価する方法について論じる。

【参考書】石川友清編：放射線概論（通商産業研究社）
 （社）日本アイソトープ協会：アイソトープ手帳（丸善）

【その他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略，追加がありうる。

地球工学科

環境工学実験 1

31410

Environmental Biology and Chemistry, Laboratory

【配当学年】3年前期

【担当者】津野・藤井（滋）・山田・日高・永禮

【内 容】生物学的及び化学的水質指標に関する基礎的水質試験を実施し、上下水道及び水質汚濁に係わる定量的な分析手法を体得させる。さらに、基礎的な微生物培養や水質調整操作についての実験及び実習を課する。

【授業計画】

項目	回数	内 容 説 明
基礎説明	5	調査，単位，計量，データ処理の説明の後，pH 計，吸光度計，天秤の操作を習得し，実験のための試薬を分担作成し，さらに実験を通して生じた重金属含有廃液を処理する。
無機指標	4	水試料のアルカリ度，アンモニア性窒素，水試料および活性汚泥中のリン，水中の SS，蒸発残留物量の測定を習得する。
有機指標	2	生物化学的酸素要求量 (BOD)，化学的酸素要求量 (COD) の測定を通して水環境試料中の有機物濃度を把握する。
生物指標	2	湖沼に棲息する生物を顕微鏡によって観察し，湖沼の汚染度を検討するとともに，細菌汚染を知るための一般細菌および大腸菌群の試験方法を習得する。

【教科書】

【参考書】環境水質学（コロナ社）

地質工学及び演習

31080

Engineering Geology and Exercises

【配当学年】3年前期

【担当者】青木・松岡（俊）・山田・水戸

【内 容】講義及び演習によって、岩盤構造物建設・防災分野、化石燃料を始めとする資源開発分野における地質工学の役割、地殻及び岩盤の調査・試験・計測・情報処理の考え方や方法ならびに評価法についての理解を図る。また、地質工学の新しい分野として、地下発電所、石油・エネルギー備蓄、放射性廃棄物処分等を目的とした地下空間開発、ならびにメタンハイドレートなど海底資源開発に関わる地質技術の適用について概説する。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
序論	1	岩盤構造物の建設・防災分野、化石燃料を始めとする資源開発分野における地質工学の役割と適用について事例を交えて概説し、講義及び演習のねらいを明確にする。
地質概査・地質精査	3	初期段階における地質概査の方法と考え方を文献調査、地形図・空中写真判読、リモートセンシング、地質踏査、物理探査などについて解説する。また、調査結果の集約としての地質図の作成と読図法について解説し、地質図学及び地質図作成法について習得させる。さらに、ボーリング調査、横坑調査、物理探査など中間段階における地質精査の方法について解説し、ボーリングコア鑑定技術について習得させる。
岩盤試験法と評価法	2	原位置岩盤試験のうち平板載荷試験・原位置せん断試験、及び岩盤透水試験について解説し、データ解析法について習得させる。また、その結果の工学的評価法及び設計・施工への適用について解説する。
岩盤不連続面計測	1	岩盤の不連続面の調査・評価・モデル化・解析方法について解説し、計測及びモデル化の手法について習得させる。
地質構造解析	1	小断層解析によって応力場を推定する方法や、地質構造の形成過程について解説する。
地下空洞建設における地質調査・計測・岩盤評価及び設計・施工法	2	地下空洞建設における物理探査、孔内載荷試験、透水試験などの地質調査・試験法、及び岩盤の計測・管理技術について解説する。また、岩盤評価及び設計・施工に関わる地質工学の基礎技術について事例を交えて解説するとともに、ケース・スタディにより地下空洞の調査計画及び設計技術を習得させる。
地下資源開発における探査・計測	2	石油・天然ガス探査を例に、地震探査記録の解釈、坑井データの利用法、地下地質構造解析、石油地質評価、埋蔵量評価などについて解説する。
地質情報解析	1	地球統計学の応用と評価法について解説する

【予備知識】基礎地質学を前提としている。

【その他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。

弾性学及び演習

30180

Fundamental Theory of Elasticity and Exercises

【配当学年】3年前期

【担当者】斎藤・朝倉・村田

【内 容】弾性学の基礎と資源工学で取り扱う弾性学の問題に重点をおき、応力とひずみ、変位、これらの中に成立する関係式、弾性基礎式と境界条件式、応力関数による2次元問題の解析などについて講述し、演習を行う。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
弾性学について	1	弾性学が目的とするもの、力学体系の中の弾性学の位置、弾性学の歴史、弾性学の前提となる仮定などについて述べる。
応力、ひずみ、変位	8	弾性問題の記述に用いられる応力、ひずみ、変位についてそれらの定義、座標変換、各種の表現法、ひずみと変位の関係、応力とひずみの関係とそれに用いられる各種の弾性定数、極座標系での表現などについて講述し、これらの事項に関する演習を行う。
弾性基礎式と境界条件	6	弾性問題を解くための弾性基礎式となる応力の釣合式、変位の方程式及び適合条件式、また境界条件式を導き、これらを解く一般的な手順について述べる。また、サンブナンの原理や弾性問題の解の唯一性、極座標系での弾性基礎式の表現などについて講述し、これらの事項に関する演習を行う。
応力関数による2次元問題の解析	5	Airyの応力関数を用いた、体積力が作用しない2次元問題の応力と変位の解析法を示し、平面重調和関数となる応力関数を用いて、 x y 座標系での種々な応力関数とそれらが表現できる境界条件について述べ、演習を行う。
極座標系での応力関数による解析	5	極座標系で記述された2次元問題への応力関数の適用と、応力と変位の解析法を示し、極座標系の平面重調和関数となる応力関数を用いてそれらが表現できる境界条件について述べ、演習を行う。
体積力を伴う場合の解析	2	体積力を伴う場合の解析法について述べ、演習を行う。

【教科書】中原：応用弾性学（実教出版）

【予備知識】微分積分学、線形代数学を前提としている。

【その他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。

流体力学

31650

Fluid Mechanics

【配当学年】3年前期

【担当者】宅田・藤本

【内 容】流体力学の基礎的事項全般

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
非粘性流体の 基礎理論	3	流体と流れの定義，連続方程式，オイラーの運動方程式，流線方程式，運動量方程式，流体の変形と回転，エネルギー方程式，循環の定義
二次元ポテン シャル流と渦 の運動論	3	速度ポテンシャル，流れ関数，複素ポテンシャル，複素ポテンシャルの応用例，ジュコフスキーの写像，流れの写像，循環と円運動，渦とその法則，直線渦の渦内部と外部の速度と圧力
揚力論の基礎	3	揚力の発生機構，ブラシウスの公式，循環をともなう円柱のまわりの流れ，平板に作用する揚力とモーメント，円弧翼および厚さをもつジュコフスキー翼の揚力
粘性流体の基 礎理論	4	粘性流体の概念，粘性係数，粘性流体の応力表示，ナビエ・ストークスの運動方程式，運動方程式の無次元化，レイノルズ数とフルード数の物理的意味，レイノルズ数の小さい円管内流れと平行流のナビエ・ストークス方程式の厳密解

【教科書】八田夏夫：基礎流体力学（恒星社厚生閣）

【予備知識】微分積分学，物理学基礎通論Ⅰ

【その他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略，追加がありうる。

【配当学年】3年 前期

【担当者】福中

【内 容】この講義では地球環境科学や資源エネルギー科学分野あるいは材料プロセス分野などで見られる化学平衡、反応熱、相平衡、自由エネルギーの概念、電気化学、化学反応速度などの物理化学基礎理論について講述する。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
熱力学第一法則および第二法則	4	熱力学第一法則、仕事と熱の定義、エンタルピー、状態量、理想気体への第一法則の適用について説明する。さらに可逆過程と不可逆過程、第二法則、カルノーサイクル、エントロピー、自由エネルギーの諸項目について解説する。
状態変化、状態図と化学平衡	3	相図と相境界、溶液、化学ポテンシャル、活量について説明する。また、相律と2成分系状態図について解説する。更に、自発的な化学反応について述べ、平衡定数を導入する。平衡定数の温度変化やエリンガム図について述べる。
平衡電気化学と水溶液イオン平衡	3	溶液中のイオンの熱力学的性質、イオンの活量、Debye-Huckelの極限法則、化学電池、標準還元電位、溶解度積と溶解度について述べる。水溶液イオン平衡などに関して適宜、プリントをも使用する。
化学反応速度論と動的電気化学	3	イオン輸送と拡散、輸率について触れた後、化学反応速度論の初歩について述べる。均一系反応と不均一系反応の違い、反応次数、積分型反応式、半減期、アレニウス式、律速段階、定常状態について説明する。衝突理論、活性錯体、Eyring式、ラングミュア吸着等温式、電気化学ポテンシャル、過電圧、Butler-Volmer式について簡単に触れる。

【参考書】アトキンス物理化学(上)(下)第6版, 千原秀昭、中村亘男訳, 東京化学同人(2001)を中心に講義を進める。材料関係に興味があればラゴーン: 材料の物理化学 I、II 寺尾光身監訳、丸善(1996)を参照

【その他】分離工学や地球工学デザイン Ibと継続して受講することが望ましい

資源工学基礎計測

31450

Instrumentation Basics in Earth Resources and Energy Science, Laboratory.

【配当学年】3年前期

【担当者】芦田，齊藤，朝倉，菅野，塚田，村田，真田，李

【内 容】資源工学上の室内実験やフィールド実験を行うための基礎として，計測にかかわる基本的な知識と技術の習得を目的とする。力学にかかわる基礎的な実験と資源工学に関係した応用的実験を自ら行いながら，測定の基本的事項，計測機器の原理と取扱い方法，データ採集と解析の方法などについて学ぶ。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
抵抗の測定	3	基礎実験：「金属試料の導電率測定」 1) 2点測定と4点測定 2) デジタルボルトメータ 3) 標準偏差，確率分布と検定 応用実験：「岩石試料の比抵抗と含水率との関係」
ひずみの測定	3	基礎実験：「片持ち梁のたわみ測定」 1) ひずみゲージ，ブリッジ回路 2) 静ひずみ計，ひずみアンプ（直流） 3) 最小二乗法 応用実験：「円孔周りのひずみ状態の解析と理論解との比較」
加速度の測定	3	基礎実験：「片持ち梁の振動測定」 1) 加速度計（圧電型，ひずみゲージ型），周波数応答 2) オペアンプ，ひずみアンプ（交流）オシロスコープ 応用計測：「デジタル計測の基礎」 ナイキスト周波数，スペクトル解析（FFT）
超音波の測定	3	基礎実験：「岩石試料の超音波伝播速度の測定」 1) 超音波変換子 2) デジタルオシロスコープ（トリガーと同期） 応用実験：「層構造モデルによる屈折法探査の基礎実験」

【教科書】その都度プリントを配布する。

【参考書】南茂夫他「はじめての計測工学」（講談社サイエンティフィック）

【予備知識】「物理学基礎論 A, B」「振動・波動論」「一般力学」「構造力学 I および演習」「物理探査学」などの講義を履修しておくことが望ましい。

資源工学地化学実験

31460

Geochemistry Experiment

【配当学年】3 回生前期

【担当者】A：青木，芦田，松岡，菅野，山田，真田，水戸，陳 B：新苗，日下，福中

【内容】[A] 地質・探査関連分野 [内容] 資源工学では野外におけるデータの収録作業や、観察作業が必要となる。これらの知識を学ぶために、探査部門と地質工学部門より以下のような2つの野外実習を行う。(1) 物理探査法の基礎である、屈折法探査計測と電気探査計測並びにデータ解析法、(2) 地質工学で必要となる地質巡検などについて学ぶ。本授業は野外での実習であるため、天候などによっては、内容・授業時間の変更（例えば、土日曜日などの正規割り当て時間外での実施）もあり得る。 [B] 環境・資源エネルギー関連分野 [内容] 環境、資源エネルギー関連分野では (1) 分離精製技術として浮遊選別実験、(2) 化学分析実験を行うと共に、(3) 水素エネルギーシステムに関連した基礎実験を行う。

【授業計画】

項目	回数	内容説明
[A] 地質・探査関連分野	計 7	
1) 屈折法探査計測実験	2	鴨川河原での野外実習とデータ解析
2) 電気探査法計測実験	2	鴨川河原での野外実習とデータ解析
3) 地質図講義	1	地質図、地形図の判読と地質巡検に必要な知識の講義
4) 地質巡検	2	地質巡検地は担当教官によって決定する。候補地：大文字山（花崗岩と接触変成作用の学習）
[B] 環境・資源エネルギー関連分野	計 7	
5) 浮遊選別基礎実験	2	単独あるいは混合粉末試料に試薬を添加して浮遊選別の基礎実験を行う。ζ 電位の pH 依存性を測定する。固体試料の粉碎を行い、粒度分布を検討する。
6) 化学分析実験	2	浮遊選別等の分離性評価及び土壌・地下水中の物質濃度測定の基本となる原子吸光分析など、主として機器分析実験を行う。
7) 水素エネルギーシステム基礎実験	2	太陽電池、水電解及び燃料電池からなる水素エネルギーシステムの基礎実験を行う。
8) 総合討論	1	5-7) の実験について測定誤差やデータのまとめ方などについて総合討論する。

【その他】[A] 前提：「物理探査学」「地球科学序論」（2 回生科目）；連携：「地質工学および演習」「波動工学」（3 回生科目）発展：「時系列解析」（4 回生科目） [B] 連携：「物理化学」「分離工学」「基礎環境工学 II」（3 回生科目）「地球工学デザイン Ib」（4 回生科目）

先端資源エネルギー工学

31440

Advanced Resources and Energy Engineering

【配当学年】3回生 後期

【担当者】齋藤、芦田、青木、松岡、朝倉、宅田、馬淵、福中

【内 容】地球人類の持続可能な発展に関わる地球学システムにおける資源・エネルギー、インフラストラクチャーおよび人間・自然環境に関するメインシステムの開発、構築および適用についての先端技術を講述する。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
地殻環境	1~2	エネルギー関連分野への地下空間の利用及びデザイン技術について
地質工学	1~2	資源エネルギー開発及び社会基盤建設、環境保全、防災等を対象とした地質工学について
地殻開発	1~2	資源開発技術および地下空間利用のための地下空間システム及び構造設計について
物理探査	1~2	各種探査データを用いた地下内部の可視化技術について
計測評価	1~2	資源開発及び地下空間開発のシステム化のための計測評価技術について
資源エネルギーシステム	1~2	新資源エネルギーシステム構築に資するエコマテリアルとそのリサイクルについて
資源エネルギープロセス	1~2	資源・エネルギープロセスのシミュレーション技術について
宇宙資源エネルギー	1~2	太陽光発電/水素エネルギーシステム及び宇宙資源エネルギー工学について

【教科書】なし

【参考書】なし

【その他】各講義ごとのレポートにより評価する

地球工学科

学外実習

39000

Spot Training

【配当学年】3年後期

【担当者】担当教員

【内 容】社会基盤施設の整備に取り組む国，地方公共団体，公団，公社および各種民間企業などの諸機関において，構造工学，水工学，地盤工学，計画学，環境工学などの地球工学の方法論や考え方を，実際への適用例を通して習得させる。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
構造工学，水工学，地盤工学，計画学，環境工学に関わる実習	*	構造物の力学特性およびその合理的設計を実現する構造工学の方法論，水工構造物の設計の基礎となる水の力学および水文学，土・岩盤の特性および地盤構造物の設計の基本的考え方，各種社会資本整備を合理的に計画する方法論，環境工学の役割などを実際への適用例を通して習得させる。

【予備知識】構造力学，水理学，土質力学，計画システム分析および基礎環境工学等の基礎科目を前提としている。

【そ の 他】当該年度の受入機関などに応じて実習内容を決める。

夏期休暇中の約1ヶ月間

空間情報学

31480

Geoinformatics

【配当学年】3年後期

【担当者】田村（正）、立川

【内 容】国土や環境に関する空間情報を収集・管理・分析する先端的な技術について解説する。特に、地理情報システム、衛星リモートセンシング、デジタル写真測量に焦点を当てる。ローカルな詳細情報およびグローバルな広域情報の収集・解析手法と、その環境や防災等の分野における利用例を、最新のデータと研究成果を含めて解説する。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
空間情報学概説	1	空間情報学の意義と役割、地球工学との関わり、空間情報学を支える先端技術（リモートセンシング、地理情報システム、デジタル写真測量等）について概説する。
地理情報システム	4	地理情報の数理表現手法と地理情報システムについて解説する。(1) 地図投影法と座標系、標準地域メッシュコード、(2) 数値地理情報の数理表現手法と地理情報システム (GIS)、(3) 数値地形モデル、(4) 空間情報の分析手法とシミュレーション手法。地球工学分野での応用例を多数紹介し理解を深める。
リモートセンシング	6	衛星センサによって地表面の情報を収集・解析するリモートセンシング技術について説明する。(1) リモートセンシングの基礎、(2) 観測センサ、(3) リモートセンシングデータの入力と表示、(4) 画像データの補正、(5) 画像分類、(6) リモートセンシングの応用。授業と並行して実際に衛星画像の解析を演習問題として行い理解を深める。
デジタル写真測量	2	デジタル写真測量の基礎理論について解説する。講義内容は、ステレオ写真の幾何学的特性と三次元計測、多重撮影写真の評定要素の同時決定と空中三角測量、オルソ画像作成などである。

【教科書】必要に応じて適宜資料を配付する。

【参考書】日本リモートセンシング研究会「図解リモートセンシング」日本測量協会、村井俊治「空間情報工学」日本測量協会、森忠次「改訂版測量学2 応用編」丸善

【予備知識】情報処理及び演習（1年後期）、確率統計及び演習（2年前期）、測量学及び実習（3年前期）を履修していることが望ましい。

【その他】疑問点があれば講義中に積極的に質問すること。教員室（田村（正）：工学部5号館104号室、立川：防災研究所D417号室）を訪れても良い。成績は、期末試験、レポート、出席を総合的に考慮して評価する。

構造実験・解析演習

31490

Computer Programming and Experiment on Structural Mechanics

【配当学年】3年後期

【担当者】田村・西村・五十嵐・宇都宮・清野・白土・杉浦・大島・小野・高橋・八木・吉川

【内 容】「構造力学Ⅰ及び演習」「構造力学Ⅱ及び演習」で学んだ理論の体験的理解と応用力の向上を目的として、構造物や部材の力学特性の検討に必要な、構造実験におけるひずみ・たわみ・振動等の計測と、マトリクス構造解析を行うための計算機プログラミングの基礎と応用を習得し、実験と計算機演習を通じてその理解を深める。成績評価は、実験・演習への参加状況と課題レポートを総合的に勘案して行う。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
序論	2	構造実験／計算機解析の意義と役割について述べ、講義で学んだ構造力学と構造実験および計算機解析との関係や、実際の構造物の破壊の事例などについて説明する。
実験	10	構造模型実験の手法と計測技術の基礎を講述するとともに、片持ちばりの静的載荷実験および振動実験、実験結果の処理と解釈・考察を通じて構造力学の理論の理解を深める。また、実験・解析技術の応用事例について学ぶ。
解析	8	トラス・はり・ラーメン構造などを対象としたマトリクス構造解析法を取り上げ、剛性マトリクスの算出や剛性方程式の構成の手順と解法、実際的な数値解法や数値解析における留意点等について説明するとともに、計算機を用いたプログラミング演習を行う。
実験解析	6	計算機解析演習において作成したプログラムを用いた構造解析により実験結果を検証し、構造物の力学的挙動とその検証の考え方に関する総合的な理解を深める。

【教科書】授業中に配布する。

【予備知識】構造力学Ⅰ及び演習、構造力学Ⅱ及び演習の知識を前提とする。

【その他】オフィスアワーは各教員別に設定し、時間・連絡方法は授業時に伝達する。

コンクリート工学

30250

Concrete Engineering

【配当学年】3年後期

【担当者】宮川豊章・服部篤史

【内 容】鉄筋コンクリートやプレストレストコンクリート構造の基礎理論およびはり・柱などの部材の設計方法について講述する。

成績評価は、数回の小テスト、期末試験等を総合的に勘案して行う（小テスト 30 点、期末試験 70 点、合計 100 点満点）。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
概説	1	コンクリート構造物の種類・特長など。
設計の基本	2	各種の設計法、安全係数など。
構造用材料	1	コンクリート、鉄筋、高分子材料の力学的挙動など。
付着・定着	2	付着・定着について、一般的挙動、耐力、例題など。
曲げ・軸力	2	曲げ・軸力について、一般的挙動、耐力、例題など。
せん断・ねじり	2	せん断・ねじりについて、一般的挙動、耐力、例題など。
ひび割れ・たわみ	2	ひび割れ・たわみについて、一般的挙動、耐力、例題など。
その他	1	その他のトピックス。
期末試験	1	定期試験期間中に行う。

【教科書】小林和夫：コンクリート構造学（森北出版）

その他、資料を配布する。

【予備知識】第2学年において構造力学Ⅰ及び演習を、また第3学年前期において材料学を履修しておくことが望ましい。

【その他】オフィスアワーは特に設けない。随時、各教員室（宮川 410 号室、服部 412 号室、いずれも工学部 5 号館）を訪れること。

耐震・耐風・設計論

31500

Earthquake and Wind Resistance of Structures, and Related Structural Design Principles

【配当学年】3年後期

【担当者】家村・松本（勝）・澤田・杉浦

【内 容】土木構造物の使用性・安全性に関わる設計の基本的諸問題について講述する。特に、環境荷重として地震荷重、風荷重を対象に、地震の発生メカニズムと地盤振動の特性、自然風の特性と強風の成因等に基づく荷重の確率・統計的評価法、設計地震スペクトル・設計風速の決定過程、および地震・強風による構造物の動的挙動とその限界状態に重点を置いてその設計論を講述する。また、死荷重、活荷重、温度荷重等も含む各種設計荷重の組み合わせの基本的考え方、構造物の保有性能を規定する各種限界状態とその評価法、要求性能とその設計フォーマット、信頼性設計と最適設計、機能性・美しさ・環境との調和等の各方面とも関連付けて概説する。成績評価は、期末試験、レポート等を総合的に勘案して行う。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
土木設計論の概説	1	土木設計学の概要について説明する。設計の概念と意義、土木設計の対象、土木構造物の特徴と要求条件、設計の流れ、力学設計、多段階決定過程、設計システム、制御系等について解説するとともに、設計表現の意義と役割、設計の表現方法について概説する。また、技術者倫理に関する事項・事例について解説する。
荷重概説	3	土木構造物の設計に当たって考慮すべき荷重の種類、特徴、分類について述べ、各々の荷重の特徴とそれらの定量的表現法について講述する。特に、地震荷重、風荷重を取り上げ、不規則性の高い荷重の統計的性質とそれらの特性値について論述する。
地盤振動および構造物の地震応答	2	地震の発生メカニズムと地盤振動の特性に基づいて、地震動の大きさを評価する方法について解説する。また、構造物の地震応答特性の評価に必要な1自由度系の運動方程式およびその解法について説明する。さらに、弾性設計法・弾塑性設計法について詳述する。
自然風の特性および構造物の空力弾性挙動	2	自然風の特性、強風の成因を説明し、構造物の設計風速決定に関わる諸因子を述べ、その決定過程を詳述する。また、種々の幾何学的形状を有する構造断面に生じる様々な空力弾性挙動（渦励振、ギャロッピング、フラッター、バフェッティング等）の種類とそれらの発生機構を説明する。
構造物の限界状態および信頼性解析	3	構造物の使用性限界、終局限界、疲労限界などの各種限界状態およびその解析法について概説する。また、荷重と構造物の強度の両者のばらつきを考慮した安全性の評価手法に関して、許容応力度設計法、部分安全係数設計法等の設計フォーマットについて詳述する。
耐震設計、耐風設計、最適設計および機能・景観設計	3	種々の構造物（長大橋を含む）の耐震設計、耐風設計、最適設計、機能・景観設計の現状と課題について説明する。

【教科書】授業中に講義資料を配布する。

【予備知識】確率・統計解析及び演習、波動・振動学、構造力学 I 及び演習、構造力学 II 及び演習、流体力学

【その他】オフィスアワーは、各教員別に設定し、時間・連絡方法は授業時に伝達する。

河川工学

30460

River Engineering

【配当学年】3年後期

【担当者】細田・竹門（防）

【内 容】河川の治水、利水および自然環境機能とそれらを有効に発揮させるための科学技術を主題とし、川を見る視点、生態系も考慮した近年の河川環境変化とその要因分析、様々な河川流と河床・河道変動予測法、河川・湖沼生態系、近年の水害の特徴、流域計画（治水・河道・環境計画、貯水池計画、総合土砂管理）、河川構造物などを内容とする。成績評価は、期末試験、講義中の小テスト、レポートを総合的に勘案して行う。（おおよそ期末試験 80 点，レポート試験 20 点で合計 100 点満点）

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
概説，川と流域をみる	1	川を見る視点，世界の川と日本の川，いろいろな河川景観
川と流域の形成過程及び近年の河相変化	1	日本列島の誕生と流域の形成過程に関する基本的事項，近年の河川環境変化とその要因分析
降水，水循環と流出現象（1）	1	気象に関する基本的事項，降水の観測と解析，水文統計，洪水の流出過程と流出解析
降水，水循環と流出現象（2）	1	気象に関する基本的事項，降水の観測と解析，水文統計，洪水の流出過程と流出解析
河川流と河床・河道変動（1）	1	様々な川の流れ，河川洪水流シミュレーション，川の中の砂の波
河川流と河床・河道変動（2）	1	土砂輸送に関する基本的事項，河川地形の分類，河床・河道変動解析
水域生態系の構造と機能（1）	1	生物群集の分布現象
水域生態系の構造と機能（2）	1	生態系における生物間相互作用
水域生態系の構造と機能（3）	1	河川・湖沼生態系の物質循環
近年の豪雨災害と治水計画	2	近年の豪雨災害の事例，流域計画策定のプロセス，治水計画策定の手順，氾濫解析とハザードマップ，超過洪水対策と総合治水
河道計画及び利水・水環境計画	2	中小河川の諸問題と河道計画，河川環境計画，正常流量設定の手順，貯水池・湖沼の水環境
総合土砂管理・河川構造物	1	土砂の生産・貯留・流出，総合土砂管理，土砂災害対策，堤防、護岸・水制、床止め、地下河川等の機能
おわりに	1	講義内容のまとめ

【教科書】教材はプリント配布。

【予備知識】予備知識として水理学、水文学の基礎知識を必要とする。

【その他】オフィスアワーは特に設けませんが、必要に応じて各教官室で対応する。（細田 216 号室，防災研究所の竹門も同 216 号室で対処する。）

水資源工学

30320

Water Resources Engineering

【配当学年】3年後期

【担当者】小尻・椎葉・堀

【内容】水資源の価値および開発・配分計画、管理、保全に関する方法論について、工学的に講述する。原則として成績評価は期末試験で行い、100点満点中60点以上で合格とする。

【授業計画】

項目	回数	内容説明
概説	1	水資源工学の目的、対象と課題
日本・世界の水資源概要	1	地球上の水分分布と循環、日本および世界における水資源の時・空間分布、水資源賦存量等
水需要の把握と予測	1	日本および世界の水需要特性、水需要の調査法・予測法
水資源開発の手段とその特性	1	貯水池・堰、海水の淡水化、流況調整河川、蒸発抑制、廃水の利用など種々の水資源開発手段とその特性
水資源開発の効率と限界	1	河川表流水の開発に関する量的な効率、投資効率、開発量の限界
利水計画の策定	2	利水安全度、目的の競合、多目的計画法
流域シミュレーション	1	水循環モデル（水量・水質）、流域管理の概念とその目的
水資源システムの管理	2	計画と実管理、計画予知と管理予知、貯水池運用の最適化（洪水・渇水）
気候変動と地球温暖化	1	気候変動が水資源の存在に及ぼす影響とその予測
持続可能な水資源計画	1	持続可能な水資源の開発と管理、水資源システムの持続可能性の評価指標
21世紀の水資源	1	最近の研究動向の紹介

【教科書】特に指定しない。

【参考書】池淵周一：水資源工学、森北出版、中澤式仁：水資源の科学、朝倉書店

【予備知識】水文学基礎、計画システム分析Ⅰ及び演習を習得していることが望ましい。

【その他】当該年度の授業回数などに応じて、一部省略・追加もしくは項目の順序の変更がありうる。なお、オフィスアワーは特に設けないが、質問等は授業時または教官室で受け付ける（事前にアポイントメントを取ること、コンタクト方法は初回講義時に伝える）。

水理実験

30870

Hydraulics, Laboratory

【配当学年】3 年後期

【担当者】瀬津・細田・石垣 (防)・後藤・牛島・岸田・角・堀・市川・沖・原田・山上・武藤 (防)・馬場 (防)・浜口 (防)・堤 (防)

【内容】水理実験および水理計測方法について概説し、水工学上の基礎的現象である管路・開水路流れ、波動、浸透流、密度流、流体力、土砂流送の水理現象に関する実験を行う。これらの実験で見られる流れとその作用の面白さを通して、水理現象を理解させる。成績評価は、実験への参加態度および実験レポート等を総合的に勘案して行う（実験への参加態度等の日常学習の評価 40 点、実験レポートの評価 60 点、合計 100 点満点）

【授業計画】

項目	回数	内容説明
水理実験の概説	1	水理実験の目的、内容などについて概説し、技術者倫理に関連する事例について解説する。
水理計測器の概説	1	水理実験で用いられる計測器について、測定の方法、機器とその原理等について説明する。
実験項目 1-4	4	下記の A から H の 8 項目のローテーション制
レポート指導	1	第 3～6 回の実験に対してレポート作成の指導を行う。
実務上の諸問題解説	1	水理現象に関連する実務上の問題を解説し、必要に応じて見学会等の機会を提供する。
実験項目 5-8	4	下記の A から H の 8 項目のローテーション制
レポート指導	1	第 9～12 回の実験に対してレポート作成の指導を行う。
A) 層流・乱流の遷移と管路抵抗則	(1)	管路における層流と乱流のパターンを染料注入法で確認する。また、層流では Hagen-Poiseuille 流れ、乱流では Prandtl-Karman 流れとなることを抵抗則の面から検討する。
B) 開水路流れの流速分布と水面形	(1)	開水路流れにおける水面形および流速分布等を計測し、等流の抵抗則、流速分布に関する理論と比較する。また、水路勾配が変化する水路での水面形を測定し、一次元解析法による理論の検証を行う。
C) 水平路床上の跳水現象	(1)	最も基本的な水平路床上の跳水現象を取り上げ、現象自体の把握とその一次元解析による理論値と実験値との比較検討を行う。
D) 波の伝播と浅水変形	(1)	一様水深部を伝播する波の波形、波速および水粒子の軌道、振幅を測定する。ついで、これらの諸量と微小振幅波理論による計算値とを比較する。さらに、斜面上での碎波高と碎波水深を測定し、従来の碎波に関する実験式と比較検討する。
E) 浸透流・地下水	(1)	細管網モデル及び Hele-Shaw モデルを用いた実験により、定常浸透流の把握を行う。あわせて、細管網モデルを用いた実験により、河川への基底流出（非定常浸透流）現象の実験的把握を行う。
F) 密度流	(1)	密度流による輸送現象を理解するため、密度流フロントの流下速度やフロント後方における等流部の流れに関する抵抗則について検討する。
G) 円柱に作用する流体力	(1)	開水路流れの中に置かれた円柱の表面に作用する圧力分布を計測し、非回転流理論との比較を行う。また流れの可視化を行い、カルマン渦の周期特性等を計測する。
H) 流砂現象	(1)	掃流砂を対象に、砂粒子の移動限界、流砂量および動的・静的平衡勾配に関する計測・観測を行い、従来の理論式や経験式との比較検討を行う。

【教科書】水理実験指導書：京都大学工学部地球工学科 水理実験担当グループ（無料配布）

【参考書】瀬津家久：水理学・流体力学，朝倉書店（1995 年）

【予備知識】水理学 I 及び演習

【その他】一部の実験項目については、京都大学防災研究所宇治川オープンラボラトリー（京都市伏見区）で行う。オフィスアワーは特に設けないが、実験実施時に各教官へのコンタクトの方法を伝える。宇治川水理実験所（京都市伏見区）で行う。

地盤環境工学

31510

Geoenvironmental Engineering

【配当学年】3年後期

【担当者】井合・大津・大西・岡・嘉門・勝見・木村・小高・西山

【内 容】 地盤環境工学は、本来広範かつ学際的である地盤工学を特に環境との接点で注目した工学で、人類の生活環境および地球環境を念頭に、環境の創生・保生・再生の観点を重視しつつ、多様な環境に関わる学問を援用・統合して、地盤の有する特性を駆使しながら環境への様々なインパクトを最小限にするための予測並びに問題を解決し、新たな環境を創造するための工学と位置づけられる。講義では、軟弱地盤対策、防災地盤工学、環境地盤工学等について解説する。「軟弱地盤対策」では、地盤改良や道路工学に関連する事項について解説する。「防災地盤工学」では、地震災害、地盤の振動と液状化、斜面災害について、「環境地盤工学」では、地下水と地盤環境、土壌・地下水汚染、廃棄物処分とリサイクルについて解説する。成績評価は、期末試験ならびにレポート等の平常点を総合的に勘案して行う。(期末試験 70 点、平常点 30 点、合計 100 点満点)

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
軟弱地盤対策	3	地盤改良や道路工学について講述する。地盤改良については、原理、分類、適用等を説明する。道路工学については、道路の構造・システムを中心に説明する。
防災地盤工学	5	斜面災害、液状化のメカニズムとハザードマップ、地震災害と液状化の対策、等を講述する。
環境地盤工学	5	地下水環境、土壌・地下水汚染、廃棄物の処分とリサイクルについて、メカニズム、対策技術等を講述する。
期末試験	1	定期試験期間中に行う。

【教科書】必要に応じて印刷物を配布。

【参考書】講義時に指定する。

【予備知識】土質力学 I 及び演習 (2 年後期) を履修していることが望ましい。

【その他】オフィスアワーは特に設けない。本部教員については各教員室 (岡 D432 室、嘉門 D174 室、勝見 D173 室、いずれも工学部 5 号館) を訪れること。防災研究所教員 (井合) については、講義時にコンタクト方法を伝える。

岩盤工学（土木工学コース）

31120

Rock Engineering

【配当学年】3年後期（土木コース）

【担当者】大西，大津，岸田

【内 容】地下空間の利用やエネルギー開発・交通網の整備を目的としたトンネル，ダム，斜面などの岩盤構造物の設計・施工方法を述べる。地質構造とその分類，岩盤や岩石の力学特性に関する基本的事項，調査・試験法，岩盤内地下水の挙動についてビジュアル教材も用いて解説する。成績評価は，期末試験（80

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
岩盤工学概観	1	地盤工学という体系の中で地質との関わりが深い岩盤工学の位置づけ，内容，適用範囲，具体的なダム・トンネル・地下構造物などの岩盤構造物について解説する。また，岩盤構造物の挙動予測のための解析を行うためにどのようにモデルを作るか，また数学的にどのように解くのかを述べる。
地下空間の利用	2	岩盤工学の適用分野で最も今日性の高いものに地下空間の利用がある。都市域および山間部での地下空間の開発計画，地下の環境，デザイン，空間開発の技術について実例を示して解説する。さらに，地下石油備蓄や放射性廃棄物の空洞処分など利用用途に伴う問題点や対策法について実事例を紹介しながら解説を行う。
地質学と岩盤工学	1	岩盤工学を学ぶ上で知っておくべき地質学の基礎を説明する。鉱物や岩石の名前，組成，地質構造，地形などについての理解を深めさせる。
岩石及び岩盤の力学特性	1	岩石の強度・変形特性とそれらを求めるための実験方法と結果の解釈の方法を理解させる。つぎに，岩盤と岩石の違い，不均質性・異方性，寸法効果について説明する。
不連続面の性質と表記法	1	断層・節理など不連続面の力学的，水理学的特性を説明し割れ目ネットワークのモデル化について理解させる。3次元的に分布している不連続面の表記法としてのステレオ投影法を演習で理解させる。
岩盤の調査法と試験法	2	地盤構造物を設計・施工する上で用いられる地盤調査法を紹介し，その原理について理解をはかる。地質調査から始めて，岩盤の載荷試験や孔内試験，多くの物理探査の方法を説明すると共にデータの解釈の方法とその結果をいかに利用するかについて解説する。さらに，初期応力の測定方法とその利用の方法について述べる。
岩盤水理	1	岩盤内を流れる地下水の挙動を把握する方法，解析の方法，環境問題との関連について説明を行う。また，水の利用とダム工学についても述べる。
岩盤構造物	1	岩盤には，ダムや橋梁の基礎，斜面が構築されるが，これら構造物を構築するための方法論，問題点について説明する。
山岳トンネル及び都市トンネルの施工	2	トンネル掘削に伴う地山の安定問題を解説した後，山岳地域におけるトンネルの施工法に関し，各種の施工法を紹介する。特に代表的な施工法であるNATMについて，その原理と施工法について解説する。一方，地下鉄，上下水道，地下道路等に代表される都市トンネルに関し，各種の施工法を紹介した後，代表的な施工であるシールド工法について説明する。シールド工法に関しては，種類と用途，一般的な施工法について概説する。
大規模地下空洞の施工および講義のまとめ	2	大規模地下空洞の設計・施工法の解説を行う。可能であれば，外部講師を招いて，岩盤工学および地盤施工に関連する話題提供を企画し，実問題への理解を図る。

【教科書】大西・谷本：わかりやすい岩盤力学（鹿島出版会）

【参考書】指定しない。

【予備知識】一般力学，土質力学Ⅰ及び演習，土質力学Ⅱ及び演習を前提としている。

【その他】オフィスアワーは特に設けないが，必要に応じて各教官室（大西 5 号館 352 号室，大津 4 号館 434 号室，岸田 5 号館 218 号室）で対応する。

岩盤工学（資源工学コース）

31121

Rock Engineering

【配当学年】3年後期（資源工学コース） 【担当者】斎藤・青木・朝倉・村田

【内 容】地下空間の利用や資源開発を目的とした地下空洞、ダム基礎、斜面などの岩盤構造物を設計する際の基礎となる、岩石や岩盤の力学特性およびその試験法、地下水の挙動などについて解説し、岩盤構造物設計へのこれらの適用について述べる。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
岩盤工学概説	1	岩盤構造物の力学的設計の全体的な流れとその問題点を整理し、岩盤工学の目的及び本講義で取り扱う範囲について述べる。
初期応力状態	1	掘削などの影響がない地下岩盤中の応力状態の一般的傾向およびその測定法などについて述べる。
岩石の力学特性の表現と試験法	4	岩石の各種の物理的特性や時間依存性を含む変形特性の表現方法について述べる。また、圧縮強度、引張強度、せん断強度などの強度特性の表現法とその試験法、さらに三軸圧縮試験、剛性圧縮試験などについても述べる。
強度と破壊の基礎理論	3	内部摩擦角説、最大せん断応力説、応力円包絡線説、せん断ひずみエネルギー説、Griffith 理論などの破壊理論とそれに基づく破壊条件、一般的な破壊条件とその表現、強度と破壊の確率論的取り扱い、破壊過程などについて述べる。
岩盤の力学特性	2	岩盤不連続面の定量化、原位置における岩盤試験法、岩盤の工学的分類などについて述べた後、不連続面の強度特性、不連続性岩盤のモデル化、およびその解析法について述べる。
岩盤中の浸透流	2	ダルシーの法則、透水試験、浸透流解析法などについて述べる。

【教科書】日本材料学会編：ロックメカニクス（技報堂）

【予備知識】弾性学の履修を前提としている。

【その他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略，追加がありうる。

都市・地域計画

30450

Urban and Regional Planning

【配当学年】3年後期

【担当者】青山・川崎

【内 容】都市計画のプロセスを述べ、都市施設計画と土地利用政策、交通政策について論じ、さらに、土地利用・交通・環境保全・都市経済などの基礎理論とモデルを講述する。成績評価は、期末試験を勘案して行う（青山担当 70 点+川崎担当 30 点、合計 100 点満点）

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
都市地域計画序論	1	都市・地域の理念と諸問題を示し、計画の社会的背景と必要性を認識させる。講義で対象とする都市・地域の定義、立地、分類についての基礎的な事項と計画の目的、歴史と思想について述べる。さらに、計画者が備えるべき技術者倫理について解説する。
(1) 都市計画の立案と実施-調整とプロセス-(2) 土地利用計画 (3) 市街地開発整備計画と都市再開発	2	計画の初期段階で行う調査の目的と内容、都市計画区域、市街化区域、市街化調整区域の考え方と事例、都市計画の決定と実施のプロセスについて述べる。土地利用計画の意義と内容、計画制限とその変遷について概説する。さらに、地域制に関する説明を行う。市街地開発整備計画の基本になる新市街地の開発計画、土地区画整理、促進区域・市街地開発事業予定区域、住区計画を説明し、都市再開発、地区再開発、住宅再開発についての事業手法を説明する。
交通計画	1	交通施設計画策定の手順とその内容について解説する。基礎になる交通需要予測モデルと交通経済学の概説、対象施設になる都市道路、公共交通、鉄道、ターミナル施設の説明を行う。
都市モデルと理論	2	人口予測・移動モデル、経済循環・基盤モデル、産業連関分析、土地利用モデル、都市経済学などについて述べる。
計画評価理論とモデル	2	政策評価・事業評価、費用便益分析、財務分析などについて述べると共に、消費者余剰、CVM、トラベルコスト法、ヘドニックアプローチの理論を概説する
環境問題と都市システム	1	環境問題、地球環境、都市環境の今日的な課題と環境経済学的視点からの計画策定のための要件について述べる。
都市の景観	2	地域風土と都市景観、緑地・公園、景観の評価分析、都市施設の景観設計について述べる。
法制・制度・財政 財源・費用分担 と便益	2	建築基準法、土地区画整理法など都市地域計画を支える法律制度と、税金や基金の制度を解説する。さらに、都市計画事業の財源、受益と費用分担、社会的便益と便益計測モデルについて解説する。

【教科書】青山吉隆編：図説 都市地域計画（丸善）

【参考書】加藤晃、河上省吾著：都市計画概論（共立出版）

【予備知識】特になし

【その他】オフィスアワーは特に設けない。質疑は各教員室（青山 D414 室、川崎 D406 室、いずれも工学部 5 号館）を訪れること。

【配当学年】3年後期

【担当者】小林(潔)、多々納

【内 容】ミクロ経済学の基礎概念を習得し、社会基盤プロジェクトの事業評価の理論に関する概念を理解させることを目的とする。このために、ミクロ経済学の基礎概念に関して比較的詳細な講義を行うと共に、市場の機能や経済主体の行動、社会厚生の評価に関する概念を後述する。次いで、市場の失敗について言及し、その対処法に関して説明する。その際、社会基盤の経済学的な特徴に関して解説し、その評価の方法として一般的な費用便益分析に関して説明する。成績評価は、定期試験、レポート、出席を総合的に勘案して行う。(定期試験：7-8割、レポート及び出席：2-3割)

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
概説及び消費者行動モデル	3	本講義の概説を行うと共に、消費者行動モデルについて詳述する。具体的には、家計の選好、効用、効用最大化行動について説明したあと、需要関数の性質、補償関数、スルツキー方程式、集計需要関数について述べる。さらに家計の厚生測度の種類とその性質について説明する。
消費者行動の演習	1	上記3回の講義の演習を行う。
企業行動モデル	2	企業の行動モデルの説明を行う。まず基本的な知識として、技術、生産関数、利潤最大化行動、費用最小化行動について説明する。続いて費用関数と供給関数についてその性質やポイントを詳述すると共に、市場構造と企業の行動について説明する。
企業行動の演習	1	上記3回の講義の演習を行う。
完全競争市場	1	完全競争市場について説明を行うと共に、一般均衡分析と部分均衡分析との違い、パレート効率性の考え方について詳述する。
外部性	1	外部性の発生メカニズムやその種類、外部性の内部化方策について説明する。
公共財	1	公共財の持つ性質やサミュエルソン条件について説明する。
市場・外部性の演習	1	上記3回の講義の演習を行う。
費用便益分析	2	費用便益分析の考え方について費用や便益の考え方、社会的割引率や評価指標に関して説明し、財務分析との違い、便益の計量化手法に関して詳述する。また技術者倫理の観点からみた、事業評価のあり方について論述する。

【教科書】ハル・R・ヴァリアン：入門ミクロ経済学，勁草書房

【参考書】小林編：知識社会と都市の発展，森北出版

【予備知識】計画システム分析及び演習(旧カリキュラムの計画システム分析I及び演習)を履修していることが望ましい。

【その他】質問等は毎週火曜日4限目の講義時間終了後(16:15-17:00)、5号館Rm.420の松島助手室で受け付ける。

交通マネジメント工学

31520

Transportation Management Engineering

【配当学年】3年後期

【担当者】北村(隆), 吉井

【内 容】社会的、経済的活動を支える都市交通の安全と円滑を促進するための調査、計画、運用に関する方法論を講述する。成績評価は、レポートと期末試験の結果を総合的に勘案して行う。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
交通工学とは	1	都市と交通, モータリゼーションの意味したもの, 交通計画, 交通工学の意義と役割
交通計画と交通調査	1	戦後の交通政策の概観, 計画プロセス, 計画における調査, 需要予測
交通需要予測手法	3	交通需要推定の考え方, 四段階推定法, ネットワーク解析, 非集計分析
交通需要マネジメント	1	各種 TDM 手法
都市交通問題の社会心理学的考察	1	何故道路混雑は解消しないのか?
道路交通流の理論	3	交通流の特性, 交通流モデル, 道路の交通容量
道路の設計と計画	1	道路の機能と種別, 設計基準, 断面構成, 線形, 路線計画
交差点	2	交差点の種別と形状, 平面交差点の交通容量, 交差点の交通処理, 交通信号制御

【教科書】佐々木綱監修, 飯田恭敬編著: 交通工学, 国民科学社, 1992

交通政策論

31530

Transport Policy

【配当学年】3年後期

【担当者】谷口栄一、中川大

【内 容】主として交通政策の枠組み・立案・実施およびその評価に関わる方法論について述べる。今日の交通政策立案においては、モビリティや効率性のみならず、環境、アメニティ、景観などの様々な要素を考慮する必要がある。また、政策立案の過程において、行政、交通機関の利用者、民間企業、住民などの様々な利害関係者の意見を集約しながら行うパブリック・プライベート・パートナーシップが重要になってきている。政策の評価については、各種のパフォーマンス指標を用いたベンチマーキングが実施されている。さらに、IT（情報技術）やITS（高度道路交通システム）などの新しい技術が開発・実用化されつつあり、そのような新技術を活用した融合型の新しい交通システムが可能となっている。一方、財政の面では公共交通事業の採算性の問題や負担の問題がある。このような状況を踏まえ、21世紀の交通政策のあり方について、港湾・空港・鉄道の計画、物流に関する計画を例にとりながら、多方面から論じる。

【授業計画】

項目	回数	内 容 説 明
交通政策概説	1	
交通政策の基礎理論	3	・交通政策の枠組み 考慮すべき要素（モビリティ、環境、アメニティ、景観）、交通政策の分類（規制政策、経済的政策、インフラ整備政策）。・交通政策の立案・実施 パブリック・プライベート・パートナーシップ、パブリック・インボルブメント、制度（補助金、融資、規制）、組織。・交通政策の評価手法 パフォーマンス指標、ベンチマーキング、アウトカム指標。
技術的・社会的背景を踏まえた交通政策の展望	4	・IT, ITSなどの新技術を活用した融合型交通 共通情報プラットフォーム、情報化、自動化。・公共交通の社会的評価 費用便益分析、財政、運賃政策。・交通環境政策 地球温暖化防止、環境ロードプライシング、環境モニタリング。・規制緩和 規制緩和の基礎理論、規制緩和の効果と限界。
交通施設別交通政策	5	・港湾・空港政策。・物流政策。・インターモーダル輸送。・鉄道政策（LRT、新交通システムを含む）。・将来展望。

【教科書】講義において適宜指示する

【参考書】講義において適宜指示する

【予備知識】交通工学と公共経済学の基礎地域を習得していることが望ましい。

【その他】オフィスアワーは特に設けないが、必要に応じて質問等に対応する。

都市景観デザイン

31630

Urban and Landscape Design

【配当学年】3回生 後期

【担当者】樋口忠彦・川崎雅史

【内 容】都市施設やオープンスペース、街路や地区の景観をデザインすることは、広域な都市、地域、自然との密接な空間のつながりを考慮し、環境との調和ある人間活動の場所を創出することである。このような都市景観の目標像を特定し、実体的なデザイン表現を行うための方法論を習得する。成績評価は演習課題のレポートを総合して行う。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
都市景観デザインの概念	4	・景観デザインの目的・意義と役割・景観デザインの対象と考え方・景観デザインの系譜（歴史の変遷、都市史）
都市景観デザインの技法とプロセス	4	・形とスケール、図面の理解・技法とプロセス・デザインの評価（事例）
都市景観デザインの表現	5	・景観調査の方法・コンセプト、デザインイメージの立案・デザイン表現

【参 考 書】都市のデザイン（学芸出版）、街路の景観設計（技報堂出版）、建築設計資料1 7 歩行者空間（建築設計資料研究社）、シビックデザイン（大成出版社）

【そ の 他】オフィスアワーは特に設けない。質疑は各教員室（樋口 D404 室、川崎 D406 室 いずれも 5 号館）を訪れること。

上水道工学

30540

Water Supply Engineering

【配当学年】3年後期

【担当者】伊藤（禎）

【内 容】都市供給の一つとして水道を取り上げ、これを生（いのち）を衛（まも）る具体的技術であるとの観点から論ずる。浄水処理技術を講述するのみではなく、流域の水循環システムにおける水道システムの位置づけ、水道水質のリスク管理手法にも重点をおき、共に考えながら講義を進める。成績評価は期末試験、出席等を勘案して行う。（期末試験 60 点+出席 40 点、合計 100 点満点）

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
科目概説	1	生（いのち）を衛（まも）る衛生工学とは何かについて論ずる。ついで、水道工学技術はその具体例であることを述べ、本講義の目標を示す。
流域管理と水道システム	2	流域の水循環システムにおいて水道システムを位置づけた後、水道水源の保全のあり方、流域統合管理とその意義について論ずる。
上水システム概説	1	水源から都市内各戸に至る全体システムを紹介し、本講義でとりあげる事項を概説する。
浄水処理プロセス	4	浄水処理の基本は、懸濁物質の除去と消毒である。緩速ろ過システムと急速ろ過システム、急速ろ過システムの単位操作、水中微生物と消毒について講述する。また、消毒によって発がん性を有する副生成物が生成することも詳述する。
高度処理プロセス	1	現在では、上記の基本的な浄水処理だけでは、複雑な水源水質や水道水に対する多様なニーズに対応することは困難である。ここでは、オゾン処理、活性炭吸着、膜分離法などの高度処理法とその意義について述べる。
水道水質管理	4	水道水中には微生物によるリスクと化学物質によるリスクが存在することを紹介し、確保すべき安全度のレベルについて考察する。ついで、現在の水道水質基準の考え方と設定法について講述した後、将来の水質管理のあり方を展望する。

【参 考 書】住友恒、村上仁士、伊藤禎彦著：環境工学—これからの都市環境とその創造のために—（理工図書）

【予備知識】環境生物・化学、水質学などを履修していることが望ましい。

【そ の 他】オフィスアワーは特に設けないが、質問や学修上の相談があれば工学部 5 号館 224 室を訪れること。

下水道工学

30550

Sewerage System Engineering

【配当学年】3年後期

【担当者】津野・藤井（滋）・田中・山田

【内 容】より快適な生活環境を創造し健康で健全な社会生活を営む上で、汚水を集め処理する下水道は必須のものとなり、社会基盤施設として緊急整備が必要なものとして位置づけられている。本講義では下水道の役割、目的及び意義を概述し、水質管理との関連を明確に提示し、建設工学的立場から施設の構成、設計並びに管理についての関連技術を整理して系統的に講述する。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
下水道基本計画	3	水環境創造・管理に係わる下水道の役割・意義について概述し、下水道の種類や流域別下水道総合計画、下水道類似施設との関連について口述する。また、技術者倫理に関連する事例について解説する。
下水流収システム	3	下水道では、汚水と雨水とを流収し、処理し、処分している。下水道管渠の計画設置に係わる基本原理を口述し、付帯する沈砂池やポンプ場について概述する。
下水処理技術	5	下水処理法の種類（簡易処理・中級処理・高級処理）とその選定法を概述し、それぞれの基本的処理フローを口述する。また、単位操作として物理的固液分離処理と生物処理（活性汚泥法や回転円板法）の浄化機序について詳述する。そして、高度処理についても概述する。
下水汚泥の処理・処分	3	最終的な発生汚泥の処理処分について、基本構成について論じ、省エネルギーの立場から、新しい汚泥処理の方向について概述する。期末試験：定期試験期間中に行う。

【教科書】環境衛生工学（共立出版）

【予備知識】水質学・水理学など

【その他】オフィスアワーは特に設けない。本部教員については各教員室（津野 230 室、山田 232 室、いずれも工学部 5 号館）を訪れること。環境質制御研究センター教員（藤井、田中）については講義時にコンタクト方法を伝える。

【配当学年】3年後期

【担当者】（環保）渡辺

【内 容】この講義では、都市および産業の活動に伴って排出される廃棄物の種類と性状を把握するための基礎的な事項、廃棄物管理計画や収集・運搬方法に関すること、各種の処理・処分方法とリサイクリングなどの廃棄物管理に関する技術・システムの基礎、し尿等有機性廃棄物の処理・処分方法の基礎について講述する。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
廃棄物の管理 体系概説	1	廃棄物管理の目的・意義・現状と問題点、廃棄物の定義と分類等および関連法制度について述べる。
都市廃棄物の 発生と収集	1	都市廃棄物発生の現況と変遷、分別収集などの収集の形態、処理計画との関連について述べる。
都市廃棄物の 性状分析	2	都市廃棄物の性状データの解釈と性状分析の方法について述べる。
廃棄物の中間 処理	2	焼却システムと施設、ごみの燃焼特性、焼却炉設計の指標、焼却炉の運転・管理、排ガスと灰の処理、余熱利用等について解説する。
廃棄物焼却に 関わる計測	1	廃棄物の焼却処理に伴う計測項目、特に排ガス計測に重点を置き、方法の概略と結果の評価方法を述べる。
最終処分	2	最終処分の目的と枠組み、埋め立て処分の方法、埋立地における物質の変化・安定化、汚濁物質の浸出とその処理について述べる。
産業廃棄物の 処理と有害廃 棄物の処理処 分	2	産業廃棄物の定義、回収・排出実態、調査方法、法体系、処理の技術・システム、有害性および特別管理の概念、有害性の判定方法、有害廃棄物の安定化処理、最終処分方法等について述べる。
し尿処理	1	し尿の処理体系、し尿の性状、し尿の収集・処理および発生源処理について述べる。
循環型社会と 拡大生産者責 任	2	廃棄物の排出抑制を目的とした生産段階での改良と、社会システムの改善の方向性について述べる。

【そ の 他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。

環境工学実験 2

31540

Environmental Engineering II, Laboratory

【配当学年】3年後期

【担当者】武田・高岡・松井（利）・米田・大河内・大下・中山・松本・村山・山本

【内容】大気環境計測、騒音振動計測、放射線計測の原理と方法、および関連する基礎的事項について講述するとともに環境に関する諸因子を計測するための物理的手法を体得させる。また環境工学に関連の深い物理的、化学的諸プロセスにかかる単位操作について基礎的プラント実験を課す。

【授業計画】

項目	回数	内容説明
実験項目の基礎	1	本授業で行う 12 の実験項目について内容と留意点を説明する。
大気環境計測	2	空気中の粉塵の量・粒径分布、また窒素酸化物（NO _x ）や炭化水素（HC）濃度の計測手法について講述すると共に、フィールドにおいて種々の大気汚染物質濃度の測定、気象観測、排出源調査を行い、大気環境調査の方法と解析手法について修得する。
騒音・振動計測	2	騒音・振動計測データを統計的に処理して種々の騒音・振動指標値を求める方法やその意義について講述する。騒音計および振動計を用いて、実際の環境騒音および環境振動の計測を行う。
放射線計測	2	(1) 放射線計測の原理と基礎：放射線と物質との相互作用を応用して放射線を検出し計測するための基礎的原理について講述する。実験に用いる GM 計数管の計数特性を分析し、放射性崩壊の統計的特性や計数効率について理解する。 (2) 環境放射能の計測：個人線量計を用いて居住空間の放射線量を計測するとともに、水中や土壌に含まれる自然放射性核種を同定し、濃度を測定する。また、サーベイメータを用いて汚染箇所を調査する方法を修得する。
環境プロセス実験	6	(1) 気体の流れ：ダクト内の流動状態を理解するために気体の流速と流量の測定に関する実験を行う。 (2) 流れ系における混合特性：トレーサー応答法による流れ系の混合特性に関する実験を行う。 (3) 管内乱流の総括伝熱係数：温水と冷水の間の熱交換実験を行い、管内乱流の総括伝熱係数を求める。 (4) 凝集：ジャーテストにより、凝集剤の最適注入率を決定する実験を行う。 (5) 沈降特性：水中の濁質の沈降現象及び、横流式沈殿池の設計についての考え方を理解する。 (6) 急速ろ過及び清浄ろ層の損失水頭：ろ速、ろ材の形状、ろ層空隙率、損失水頭との関係を把握する。 (*）廃水および廃棄物処理

【教科書】別途実験指導書を配布する。

【その他】各実験項目ごとに実験方法、結果と解析を記したレポートを提出させる。配当された授業時間のうち、講義や実験にあてられる以外の時間は、データ整理やレポート作成のために利用される。授業最終日には実験期間に排出した廃水と廃棄物の処理を行う。

資源工学のための材料学

31690

Materials Science for Earth Resources and Energy Engineers

【配当学年】3年後期

【担当者】馬淵・塚田・村田

【内 容】岩石や金属などの結晶材料を対象に、破壊力学の観点及び原子レベルでの微視的挙動との関連から巨視的挙動を説明するとともに、それを基に材料と資源・エネルギーの関係に関して言及する。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
強度と破壊	2	巨視的レベル、微視的レベル、原子レベルでみた材料の破壊について解説する。また、材料の強度、弾性、塑性、脆性、延性など材料の力学的性質について解説する。
破壊力学	3	弾性き裂のまわりの応力集中と破壊靱性、弾性き裂の伝播、塑性変形を伴うき裂の伝播、など破壊の巨視的挙動を記述する破壊力学について解説する。
塑性変形と転位	3	微視的レベルから結晶塑性の基本となる刃状転位、らせん転位の転位線、バーガスベクトル、パイエルスポテンシャル、キンク、ジョグなどの性質について解説する。
き裂の発生と伝播	2	交差、合成、分解、反応、増殖などの転位の挙動について解説する。また、このような転位の挙動からみたき裂の発生と伝播について解説する。
疲労とクリープ	2	材料の寿命と密接に関係する材料の疲労とクリープについて、巨視的レベルおよび微視的レベルから解説する。また、粘弾性体のレオロジーモデルについても解説する。
材料強化と資源・エネルギー	2	固溶強化、析出強化など材料の強化機構について解説する。また、資源・エネルギーの観点から、材料の高強度化、長寿命化のための材料設計について解説する。

【参考書】井形直弘 材料強度学（培風館）など

【その他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。

波動工学

31670

Wave Motions for Engineering

【配当学年】3年後期

【担当者】芦田・松岡(俊)・三ヶ田

【内 容】自然界に見られる波動現象を理解し、資源工学分野で必要となる応用力を身につける。特に地下を伝播する弾性波動・電磁波動の挙動について述べる。また計算機による波動のシュミレーション技術、さらに観測された波動に対する解析技術についても触れる。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
単振動とその重ね合わせ	1	資源分野において現れる振動現象・波動現象について例を中心に述べる。さらに単振動およびその重ね合わせについて述べる。
減衰振動・強制振動	1	1 自由度の減衰振動に関して減衰常数を定義し、振動波形を求める。さらに調和波外力に対する共振曲線・位相曲線を求め、周波数応答特性を明らかにする。
連成振動	1	2つ以上の振動系がお互いに力を及ぼしあっている時の振動に関して述べる。
弦を伝播する横波	1	弦を例に取り1次元の波動方程式を導出し、波の性質に関して述べる。
波動方程式の差分解法	1	波の現象を理解するために、計算機を用いた波動方程式の解法に関して述べる。
波の屈折と反射	1	不均質な媒質を伝播する波動現象において生じる波の屈折と反射に関して述べる。
弾性波動	3	弾性体を伝播する波動に関して、弾性体の運動方程式より波動方程式を導き、縦波と横波の存在に関して述べる。さらに表面波に関して、その分散現象に関して述べる。
電磁波動	1	マックスウェルの方程式より電磁現象が従う波動方程式を導出し、その解法に関して述べる。
回折現象	2	キルヒフオフの積分定理を用いて、波の回折現象について述べる。
観測された波動の解析	1	観測された波動現象を解析する上で必要となる幾つかの手法(フーリエ解析・相関関数・デコンボリューション)などに間にて述べる。

【予備知識】ベクトル解析・一般力学・電磁気学

【その他】当該年度の授業回数等に応じて一部省略・追加があり得る。

応力解析法及び演習

30650

Stress Analysis and Exercises

【配当学年】3年後期

【担当者】齋藤・塚田・村田

【内 容】コンピュータによる数値応力解析に必要な理論と解法を述べ、いくつかの例題について主にマトリクス法と有限要素法による応力解析の演習を行う。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
エネルギー原理入門	5~6	ひずみエネルギー関数を定義し、仮想仕事の原理、最小ポテンシャルエネルギーの原理を導き、弾性基礎式との関連について述べる。また、これらと相補的な原理についても述べる。
コンピュータを用いた数値応力解析	4~5	エネルギー原理に基づく近似解法について述べ、有限要素法の定式化を行う。また、差分法、境界要素法についても簡単に述べる。
模型実験	2	次元解析とその構造解析問題への適用について述べ、数値解析を含む模型実験による応力解析法の基礎について述べる。
(演習)トラス構造物のマトリクス法による解析	6	トラス構造のマトリクス法による応力解析の方法を解説し、平面トラス構造のための電算機プログラムを作成する演習を行う。
(演習)平面弾性問題の有限要素法による解析	8	二次元平面弾性問題の有限要素法による定式化、および、その電算機プログラミング技法について解説し、例題についてそのプログラムの作成と実行の演習を行う。

【予備知識】弾性学及び演習、情報処理及び演習

【その他】講義を中心とした授業（週1コマ）と演習（週1コマ）を並行して行う。

熱流体工学

31680

Heat Transfer

【配当学年】3年後期

【担当者】宅田・藤本

【内 容】熱伝導，熱伝達および熱放射による熱の移動に関連する基礎的事項の講述

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
熱伝導の基礎 と定常熱伝導	2	フーリエの法則と熱流束，熱伝導方程式の誘導 1次元系，軸対称系および球座標系の定常熱伝導問題（積層 板や積層円筒の場合も扱う）
非定常熱伝導	1	有限差分法に基づく非定常熱伝導方程式の近似解
対流熱伝達の 基礎	1	対流熱伝達，ニュートンの冷却法則，エネルギー方程式
平板の場合の 層流熱伝達	1	平板に沿う層流熱伝達を支配する方程式系の誘導，速度分布 と温度分布の解
平板の場合の 乱流熱伝達	2	平板に沿う乱流境界層の摩擦抗力係数からの局所および平均 ヌッセルト数の定式化，平板上の熱流束一定のときのヌッセ ルト数，非伝熱区間のある場合のヌッセルト数の補正
円管の場合の 熱伝達	3	円管内流れにおける助走区間，発達した流れの領域における 表面温度一定の場合と熱流束一定の場合の伝熱学的考察，円 管内の乱流域における速度分布，摩擦抵抗係数，ヌッセルト 数の定式化
垂直平板の自 然対流	2	ブジネスク近似による運動量方程式，速度境界層と温度境界 層，グラスホフ数，局所および平均ヌッセルト数の誘導，乱 流の効果
ふく射	1	ふく射，ステファン・ボルツマンの法則

【教科書】八田夏夫：熱の流れ（森北出版）

【予備知識】微分積分学，流体力学及び演習

【その他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略，追加がありうる。

【配当学年】3年後期

【担当者】福中、新苗

【内 容】この講義ではまず、地球環境科学や資源エネルギー科学、リサイクル設計分野の基礎となる分離工学を技術の立場から講述する。後半では、それらの分離技術の基礎となる表面の物理化学や固体物理学の初歩を学習する。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
初めに	1	資源精製工学から製錬工学、分離工学、環境資源エネルギー工学への発達とその展開
浮遊選鉱	2	浮遊選鉱の歴史、接触角、捕収剤、抑制剤、活性剤、起泡剤、Barsky の関係、臨界浮遊曲線
溶媒抽出	2	溶媒抽出法の歴史、溶媒抽出法の一般的プロセス、抽出剤、希釈剤、平衡抽出曲線、McCabe-Thiele-Diagram、溶媒抽出の応用例
重液選別、ジグ、薄流選別	2	重液の特性、浮沈試験、可洗曲線（性状、浮上、沈降曲線）、ジグの理論、干渉沈降、等速沈降比、薄流選別理論、平面上の流体速度、流体中の粒子沈降、テーブル上の粒子運動、薄流選別装置
磁気選別と静電選別	2	物質の磁性、磁場内で物体に作用する力、磁気選別装置、静電界内での粒子の帯電と帯電粒子に作用する力、静電選別装置
表面や界面の熱力学および物理化学	3	表面張力の測定、曲面の表面張力、毛管凝縮、ギブズの吸着式、表面過剰量、単分子膜と表面圧、界面活性剤、ミセルと液晶、界面電荷と電気二重層、ゼータ電位、DLVO 理論
固体物理学初歩	1	シュレディンガー方程式と波動関数、並進、振動、回転運動、原子構造とスペクトル、分子構造、固体の電子的性質、固体バンド理論と半導体、統計熱力学、分配関数、平衡定数、結晶構造、XRD

【参 考 書】アトキンス物理化学，千原秀昭、中村亘男訳，東京化学同人 (2001)

【そ の 他】物理化学や地球工学デザイン Ib と連携して受講することが望ましい。

工業計測

30760

Measurement Systems

【配当学年】3年後期

【担当者】塚田

【内容】さまざまな物理量の計測について、その検出法、変換法、および記録法などの原理と、それを実現するためのセンサや電子回路について概説する。また、測定データの統計的取扱い、デジタル計測の概念についても講述する。それらを通じて、種々の実験やフィールド計測に携わる際に必要な計測に関する基本的理解を涵養する。

【授業計画】

項目	回数	内容説明
測定系の構成と特性	2	測定系の基本的な構成を述べたあと、測定系のシステムとしての数学的表現と、その静特性（直線性、感度、レンジなど）・動特性（ステップ応答・周波数応答）について講述する。また、測定器の剛性と負荷効果についても述べる。
センサとその物理	2	物理学上の様々な法則や効果について概観しながら、それらを利用した種々の基本的なセンサ（トランスデューサ）の原理について概説する。
基本的な物理量の計測	4	以下の4項目について、基本的なセンシング要素の原理と特性、計測系構成における留意点、実際の装置などについて、ある程度詳細に述べる。 1) 力と変位の計測 2) 運動・振動の計測 3) 流体の計測 4) 温度・熱の計測
信号の変換と記録	2	1) センサからの出力を変換（増幅・濾波など）するためのオペアンプを使った電子回路について解説する。 2) デジタル計測の基本、すなわちサンプリングと量子化の原理と留意すべき事柄、実際の A/D 変換回路などについて解説する。
測定データの統計的処理	2	測定データの誤差（ばらつき）とその統計的表現、間接測定における誤差伝播の法則、二変量間の関係の統計的取扱いと最小二乗法、時系列データの処理方法について講述する。
現代的な計測技法	2	光・マイクロ波（とくに波の干渉）を利用した計測と、パターン計測・画像計測など、現代的な計測技法について概説する。（なお、講義の進捗状況によっては割愛する場合もある）

【教科書】必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】南茂夫他「はじめての計測工学」（講談社サイエンティフィック）

E.O.Doebelin, "Measurement systems", 5th ed., McGraw Hill

【予備知識】力学と電磁気学についての基礎的理解を前提とする。また、「地球工学基礎数理」の履修を前提とし、微分方程式やラプラス変換についてある程度理解していることが必要である。

【その他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。

資源工学材料実験

31570

Materials testing for mineral science and technology

【配当学年】3年後期

【担当者】斉藤・宅田・馬淵・楠田・藤本・村田・陳・浜

【内 容】資源工学や一般の固体力学で扱う材料の中から岩石および金属材料を取り上げ、それらの機械的特性および微視的特徴を知るための材料実験の基礎を修得する。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
全体説明	1	授業計画の説明，安全のための諸注意および班分けなどの全体説明を行う。
岩石の材料試験と破壊条件	4	材料試験機の構造と岩石材料試験の概要，ストレインゲージによるひずみ計測法、岩石の一軸圧縮試験，岩石の引張試験（圧裂試験），得られたデータによる破壊条件の決定と演習。
金属材料の引張試験と機械的特性	4	金属材料の試験法の概要，鋼材・アルミニウム合金材の一軸引張試験，応力-ひずみ曲線の算出、機械的特性の測定および解析。
金属，岩石の組織観察	4	金属組織観察のための研磨・腐食，結晶粒等の組織観察，岩石のクラックの可視化技術および組織観察。

【教科書】必要に応じてプリントを配布する。

【予備知識】弾性学及び演習、資源工学基礎計測

地震・風工学

30830

Earthquake and Wind Engineering

【配当学年】4年前期

【担当者】松本勝・澤田純男

【内 容】この講義では、土木構造物の地震、強風による挙動評価と、それらに対する設計法について概説する。特に、環境荷重としての評価法の他、構造物の動的挙動評価、耐震設計、耐風設計に重点を置いて講述する。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
地震荷重・風荷重の工学的評価	2	環境荷重としての地震荷重、風荷重を評価するための統計・確率理論および不規則振動論の基礎と設計震度、地震スペクトル、設計風速の決定過程という応用面を説明する。また、技術者倫理に関連する事項・事例について解説する。
地盤振動	2	地震の発生メカニズムと地盤振動の特性に基づいて、地震動の大きさを評価する方法について解説する。また、地震計の原理について述べる。
構造物の地震応答	3	構造物の応答特性評価に必要な、1自由度系の運動方程式とその解法について解説する。さらに、弾性設計法および弾塑性設計法について詳述する。
自然風の特徴と設計風速	2	自然風の特徴、強風の成因を説明し人間生活とのさまざまな関わりとそれらの統計・確率的性質を述べる。また構造物の設計風速決定に関わる諸因子を述べその決定の過程を述べる。
構造物の空力弾性挙動	3	種々の幾何学形状を有する構造断面に生じる様々な空力弾性挙動（渦励振、ギャロッピング、フラッター、パフェッティング等）の種類とそれらの発生機構を説明する。
耐震設計・耐風設計の概要	2	種々の構造物（長大橋を含め）の耐震設計・耐風設計の現状と課題に付いて説明する。

【教科書】特に無し

【予備知識】確率・統計理論の基礎、振動・波動論の基礎、流体力学

【その他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略，追加が有り得る。

ターミナル工学

30820

Terminal Facility Engineering

【配当学年】4年前期

【担当者】小林（潔）、谷口

【内 容】現代社会において港湾や空港は豊かな国民生活や国際交流にとって不可欠な社会資本となっている。今日、港湾や空港のもつ機能と役割はますます多様化し、複合化しつつある。本講義においては交通経済学、公共経済学の立場から、港湾や空港の機能やそれが地域経済に及ぼす影響について論じるとともに、それらをいかに計画し、設計し、建設するかについて実際的な知見に基づき論述する。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
概説	1	交通ネットワークの中のノードとしてのターミナルの機能と役割について概説する。
物流ターミナル	2	トラックによる物流の拠点としての広域物流拠点、トラックターミナル、都市内デポなどの物流ターミナルについて、求められる機能、計画手法、設計手法についての経済活動との関連について講述する。
バスターミナル・駐車場	2	自動車交通の中におけるバスターミナル・駐車場の機能、問題点について述べ、その計画手法・設計手法について講述する。また、円滑な道路交通を実現するための方策についても論じる。
鉄道駅・駅前広場	1	鉄道と他の交通機関との結節点としての駅及び駅前広場について、その果たすべき機能、計画手法、設計手法について講述する。
運輸経済とターミナル	1	社会資本としての公共ターミナルの機能とターミナルが輸送活動や地域経済に及ぼす影響について概説する。あわせて、交通経済学について概説し、ターミナル経済に関する基礎的な理解を深める。
港湾	3	港湾整備の歴史を振り返り、港湾と地域経済の関わりについて論じ、国際的・長期的な視点から見た港湾計画の基本的な考え方について講述する。さらに港湾施設の計画・設計手法の詳細についても述べる。
空港	2	国際・国内交通においてますます重要性が増している航空輸送について、その特性と現代社会における役割を論ずる。さらに航空輸送の要としての空港に求められる機能、計画手法、設計手法について講述する。
まとめ	1	円滑なマルチモーダル輸送を実現し、地域活性化に資するための今後のターミナルの計画における基本的な考え方について展望する。

【教科書】奥野正寛、篠原総一、金本良嗣編：交通政策の経済学（日本経済新聞社）

土木法規

30840

Administration of Public Works

【配当学年】4年前期

【担当者】伏見

【内 容】現行の土木行政法規の概要を述べ、それらと国づくり、まちづくり、土木施設との係わり、計画、建設、管理、運営の実際を解説する。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
序論	2	・土木工学の語源、略史を述べる。 ・土木における官民の役割分担と土木行政法規の大系を述べる。
基本となる法規	1	・土木事業の基本となる法令について述べる。就中、土木施設用地の取得に関する法令について考察する。 (憲法, 民法, 土地収用法, 国土総合開発法, 国土利用計画法, 土地基本法)
土木施設 自然公物: 河川	2	・河川法、海岸法、砂防法、地すべり等防止法、急傾斜地災害防止法等について解説する。
土木施設 人工公物: 道路、鉄道、港湾、空港など	3	・人工公物である土木施設の計画、建設、管理、運営について、法規に則り解説する。 (道路法, 道路整備特別措置法, 高速自動車国道法, 国土開発幹線自動車道建設法, 道路運送法, 港湾法, 航空法, 空港整備法, 鉄道事業法, 軌道法, 全国新幹線鉄道整備法, 都市モノレール法)
土木計画と “まちづくり”	2	・都市計画や土地利用計画、まちづくりの事業に関する法令を解説する。 (都市計画法, 建築基準法, 森林法, 農地法, 土地区画整理法, 都市再開発法, 新住宅市街地開発法, 公有水面埋立法)
土木施設と 環境, 文化財	1	・環境に関する土木行政法規や土木事業に関わる環境アセスメントについて述べる。 (都市公園法, 自然公園法, 下水道法, 環境影響評価法, 環境影響評価条例, 文化財保護法, 大気汚染防止法, 騒音規制法)
建設工事と 事故, 災害 技術者の ライセンス	2	・建設工事、災害、事故に関する主な法規を概説する。 (国家賠償法, 公共土木施設災害復旧事業費国庫負担法, 建設業法, 道路交通法) ・土木工学の新しい展開について述べる。

【教科書】講義プリントを配布する。

材料実験

30860

Construction Materials, Laboratory

【配当学年】4年前期

【担当者】宮川豊章・服部篤史・高橋良和・山本貴士・大島義信・(技) 桧垣義雄

【内容】材料学およびコンクリート工学で講述する材料の特性を実地に習得させるため、主としてコンクリート材料およびコンクリートを中心とする実験および部材試験を行う。成績評価は、各回のレポート点の合計を勘案して行う(100点満点)。

【授業計画】

項目	回数	内容説明
概説	1	本実験の内容を概説し、各実験の意義および注目すべき項目を述べる。また、実験で用いる計測技術について述べるとともに、試験および調査の方法について概観する。
セメント	1	セメントについて、比重、粉末度、凝結、モルタルのフロー試験を実施する。
骨材	1	細骨材、粗骨材について、比重、吸水率、ふるい分け、単位容積重量、表面水率の試験を実施する。
配合設計およびフレッシュコンクリート	1	「セメント」「骨材」で得られた結果を用いて配合設計を行い、フレッシュコンクリートを作成してその性状を検討するとともに、「硬化コンクリート」用供試体を作成する。
硬化コンクリート	2	「フレッシュコンクリート」において作成したコンクリート供試体について、各種破壊試験および非破壊試験を実施する。
鉄筋	1	コンクリート補強用鉄筋について、降伏点、引張強度、伸びなどの引張性状を調べる試験を実施する。
はりの設計	2	鉄筋コンクリートおよびプレストレストコンクリートはり供試体の設計を行う。
はりの打設	1	「はりの設計」に基づいて、実際にコンクリートはりの打設を行う。
プレストレストの導入	1	プレストレストコンクリートはり供試体に対してプレストレストの導入を行う。
はりの載荷	2	作成した各はり供試体の載荷を行い、曲げ性状およびその違いを検討するとともに、「はりの設計」において求めた諸荷重値の確認を行う。
期末試験	0	実施しない。

【教科書】岡田清監修: 建設材料実験(日本材料学会)

【予備知識】第3学年において、材料学、コンクリート工学を履修しておくことが望ましい。

【その他】オフィスアワーは特に設けない。随時、各教員室(宮川 410 号室、服部 412 号室、高橋 254 号室、山本 410W 号室、大島 452 号室、いずれも工学部 5 号館)を訪れること。

地球防災工学

30880

Global Engineering for Disaster Prevention

【配当学年】4年前期

【担当者】(防災研) 河田恵昭

【内 容】近年の地球規模の自然環境や社会環境の急激な変容に伴って、先進国、発展途上国を問わず自然災害の様相は変貌し、複雑化するとともに、阪神・淡路大震災のような都市大災害の発生が憂慮される。そこで、地震災害、水災害などの自然災害の学理の基礎とその対策方法について講述する。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
現代の災害と都市災害	2	都市化の社会的問題、地球規模の都市化、災害脆弱性、都市の災害の区分、都市災害の特徴、災害文化の育成、被災経験の風化、都市災害の解析、都市大災害の発生などについて述べる。
災害の進化と比較災害論	3	近年のわが国の自然災害、進化する災害、都市水害の激発、自然災害としてのペスト、わが国の天変地異の特性、災害環境と疫病環境、災害観と自然観、比較津波災害論などについて述べる。
巨大災害とその復元	3	わが国の巨大災害、世界の巨大災害、わが国と中国の気候の類似性、巨大気象災害の周期性、巨大災害（1）—安政南海地震津波—。巨大災害（2）—枕崎台風—について述べる。
都市総合防災システム	3	総合防災システムの必要性、生体防御。都市と生体の類似性、生体防御の都市防災への応用、都市災害対策、都市の地下空間水没、こころのケア、ボランティア、防災地理情報システム（GIS）、危機管理、都市総合防災システムを述べる。
地震災害対策と水災害対策	2	わが国の現在の地震と水災害対策の骨格とその考え方の背景を概述する。

【教科書】河田恵昭：都市大災害（近未来社）、河田恵昭編著：水循環と流域環境（岩波書店）

【予備知識】自然科学のみならず社会科学に関心をもっていることを前提としている。

【その他】当該年度の授業回数などに応じて突発災害の話題の追加がありうる。

地球工学デザインⅠ（土木工学コース）

31150

Design Exercise for Global Engineering I (Civil Engineering)

【配当学年】4年前期

【担当者】樋口忠彦・川崎雅史

【内 容】都市構造物と公共空間の文化的環境、人の活動を理解し、それらと密接な関係に基づく空間編成のあり方を、道や広場、水辺の公共空間、都市施設の景観デザインの実践的表現のトレーニングによって習得する。主に設計事例の図面のトレースや人と環境との調和をめざした景観デザインのエスキースを行ない、総合的な空間理解を深める。成績評価は演習課題のレポートを総合して行う。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
概説	1	景観デザインの実践的なプロセスについての概説を行う。
設計図面の解読	2	街路・広場、水辺の公共空間、都市施設の景観設計、シビックデザインの事例図面を解読し、その評価視点を考察する。
設計図面とその表現方法	1	景観設計図面の配置図、平面図、断面図、パース図のそれぞれについて、その表現方法を講述する。
デザイン演習－都市ベースマップの作成	2	都市計画的規模の平面配置図、パース図、アクソメ図を中心とした都市のベースマップのトレースを通じて都市空間レベルの表現と理解を深める。
デザイン演習－設計図面のトレース	3	街路・広場、都市施設の景観設計、シビックデザインの事例図面の解読を行い、その部分的なトレースを通じて景観デザインの評価視点を特記させる。
デザイン演習－実測に基づく設計図面の作成と景観把握	4	水辺とまちの断面配置図を作成し、基本的な空間断面の骨格を理解し、両者の関係性の理解を深める。実際の景観設計事例の実測に基づいて、公共空間と小施設の設計図面、配置図、平面図、断面図を作成し、総合的な空間理解を深める。

【参考書】建築設計資料 17 歩行者空間（建築資料研究社）

【予備知識】都市景観デザイン（3年後期）を履修していることが望ましい。

【その他】オフィスアワーは特に設けない。質疑は各教員室（樋口 D404 室、川崎 D406 室、いずれも 5 号館）を訪れること。

地球工学デザインⅠ（資源工学コース）

31151

Design Exercise for Global Engineering I（Resources Engineering）

【配当学年】4年前期

【担当者】内容欄参照

【内 容】前期の前半において (a) または (b) のいずれかを、後半において (c) または (d) のいずれかを選択して履修すること。詳しい授業計画は開講時にガイダンスする。

(a) の担当者: 芦田・菅野・三ヶ田・真田 (b) の担当者: 福中・日下

(c) の担当者: 青木・新苗・水戸 (d) の担当者: 馬淵・楠田・陳

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
(a)	前半 14	室内模型を用いて簡単な屈折法の実験を行い、屈折法地震探査を習得するとともに、棒内を伝播する波動の挙動を観測し、重複反射、応力についての基礎的知識を習得する。また、賀茂川河岸において屈折法地震探査・電気探査を行い、現場データを取得し、解析プログラムを用いてデータ解析を実施する。さらに、ワークステーション及び反射法地震探査用データ処理ソフトウェアを用いて、反射法地震探査のデータ処理を行うとともに、物理検層ソフトウェアを用いて、物理検層解析技術を習得する。
(b)	前半 14	物理化学は地球環境科学やエネルギー科学分野の諸研究の出発点として必修の科目であり、また、資源工学が立脚する地球科学という立場からも、鉱物資源の生成機構の解明などには物理化学的素養は不可欠である。このことを踏まえ、物理化学や熱力学に関連した応用数学、物理的変態、化学平衡、電気化学、界面化学、反応速度論における基礎的な問題について演習を行い、それらに対する理解と研究における適用力を高めさせる。
(c)	後半 14	岩盤の工学特性とその調査・試験法および設計・施工法への適用、地盤、岩盤内の地下水、物質の移動現象とそのメカニズム、高レベル放射性廃棄物の地層処分、汚染土壌の浄化技術など資源環境システムに関する具体的問題点について解説するとともに、データ解析・モデル形成・予測設計の基礎及び応用についての演習・レポート作成を通じて、これらに関する基本的考え方を体得させる。
(d)	後半 14	地形情報処理技術と資源統計処理技術の基礎と応用について学習する。前者では、地形情報のデジタル化および地形図の作成、景観シミュレーション、偏光顕微鏡による鉱物の同定、蛍光観察法による間隙、クラックの抽出ならびに画像処理による解析と評価である。この他に地質調査の基礎知識の把握のため、野外調査を行う。後者では、データベースに格納された資源統計を用いて資源エネルギーの需給動向の把握と現・近未来における需要予測を試みる。

【そ の 他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。

地球工学デザインⅠ（環境工学コース）

31152

Design Exercise for Global Engineering I (Environmental Engineering)

【配当学年】4年前期

【担当者】松井三郎、松本忠生、越後信哉、内田信一郎

【内 容】具体的な地域と地域の水環境にかかわる課題を設定して、上・下水道の基本計画及び基本設計の演習を行う。3年次までに習得した知識を応用して施設の計画・設計を行いつつ、現実的な条件や制約のもとで解を見いだす、あるいは選択する、プロセスを経験することがねらいである。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
環境施設の計画・設計	1	都市の給排水の現状と課題について講述する。また、環境施設の計画・設計のプロセス、「設計基準」等について概説し、本演習のねらい、進め方を説明する。
上・下水道基本計画	2	対象地域の設定、地域の特性や問題に基づく計画課題の設定、都市の構想と概略の計画、及び給排水施設の計画（区域、方式、規模、処理場の立地などの決定）といった一連の手順を説明する。人口予測と給水量及び下水量計画値の推算を演習する。
上水道基本設計	2	配水施設（配水管網）及び浄水場施設を主内容にして、上水道施設の配置及び容量の決定方法を説明する。簡単な事例で演習するとともに既設の施設の設計図を読み、当該実施施設の見学を行う。
下水道基本設計	3	下水道設計の最新の状況を解説するとともに、下水管きょ施設、処理場施設の容量及び配置の決定方法を説明し、簡単な事例で演習する。実施施設の見学を実施する予定。
計画、設計事例演習	5	各自が任意の実地域を選定して具体的な計画、設計作業を行う。すなわち、各々が設定した目標や課題にしたがって都市のランドデザインを決め、土地利用を概略定めるとともに、上下水道施設の立地、配置を検討する。配水管網と下水管ルートを決めて管径や流量を決定する。浄水場もしくは終末処理場施設の容量計算を行う。作業過程で現れる問題を議論、検討しながら進め、一連の作業を図面や計算書資料にまとめる。配水管網の設計はコンピュータを利用する。また、時間の関係で、一部作業を割愛、簡略化することもある。
プレゼンテーション	1	計画・設計作業のまとめを本演習での成果として各自が発表する。全員で議論を行い、本演習で実施した全般について理解を深める。

【教科書】使用しない。適宜プリントを配布する。

【参考書】「水道施設設計指針(2000)」(日本水道協会)、「下水道施設計画・設計指針と解説(1994年版)」(日本下水道協会) など

地球工学デザインⅡ（土木工学コース）

31160

Design Exercise for Global Engineering II (Civil Engineering)

【配当学年】4年前期

【担当者】松本 勝・宮川豊章・服部篤史・関 文夫

【内 容】前半の講義では、鋼橋の構造力学的設計に関わる荷重・外力論と構造物の設計法を説明するとともに鋼構造物の形態的、造形的特徴からその景観設計の考え方について述べる。また、後半の講義では鉄筋コンクリートおよびプレストレスコンクリートの基礎理論およびデザイン、部材設計に関する講義と演習を行う。

成績評価は、中間レポート（製作含）、期末レポート等を総合的に勘案して行う（中間レポート 50 点、期末レポート 50 点、合計 100 点満点）。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
鋼構造物に作用する荷重，外力の評価	2	鋼構造物に作用する種々の荷重，外力（死荷重，活荷重，地震荷重，風荷重等）と構造物の応答について説明する。
鋼構造物の造形的特徴と形態論	6	特に橋梁について，それらのデザインコンセプトとその表現方法に事例を紹介すると共に，造形的・形態的特徴をイメージ言語によって表し，望ましい構造物の景観・形態について説明する。
エッセティクス，エコデザイン，シナリオデザイン	1	コンクリート及びコンクリート構造物の美学，エココンクリート及びコンクリート緑化の考え方，事例，ならびにコンクリート構造物の寿命，リハビリテーション，メンテナンスについて解説する。
プレストレスコンクリートの設計	4	プレストレスの基本概念，プレストレスの導入方法について概説するとともに，プレストレスの時間的減少のメカニズムとその評価方法について述べる。さらに，プレストレスコンクリートの曲げ及びせん断挙動の解析と設計に関する基礎理論を講述するとともに，曲げに対する断面の設計法について述べる。
期末試験	0	実施しない。

【教科書】後半について，岡田清監修，藤井学・小林和夫共著：プレストレスコンクリート構造学（国民科学社）

【参考書】その都度指示する。

【予備知識】構造力学Ⅰ及び演習，構造力学Ⅱ及び演習，構造力学Ⅲ，構造実験，材料学，コンクリート工学を履修しておくことが望ましい。

【その他】オフィスアワーは特に設けない。随時，各教員室（松本・関 114 号室、宮川・服部 412 号室、いずれも工学部 5 号館）を訪れること。一部省略，追加，および順序の変更があり得る。

地球工学デザインⅡ（資源工学コース）

31161

Design Exercise for Global Engineering II (Resources Engineering)

【配当学年】4年前期

【担当者】内容欄参照

【内 容】前期の前半において (a) または (b) のいずれかを、後半において (c) または (d) のいずれかを選択して履修すること。詳しい授業計画は開講時にガイダンスする。

(a) の担当者: 斎藤・村田 (b) の担当者: 宅田・藤本・浜

(c) の担当者: 松岡・山田 (d) の担当者: 朝倉・塚田・李

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
(a)	前半 14	資源開発における岩盤工学の果たす役割とその重要性、及び地下大空洞や大規模斜面を設計する上で重要な要素となる岩石・岩盤破壊の評価に関連した岩石の破壊現象及び破壊条件について講義する。また、岩石・岩盤の最も基礎的な物性である弾性係数・圧縮強度・引張り強度・弾性波伝播速度の測定法、及び岩石の破壊現象ならびに破壊条件について演習及び実験を通じ学習させる。さらに、簡単なモデル実験と有限要素法解析を用いて、地下空洞の変形破壊に大きく影響を及ぼす空洞周辺に発生する応力について理解を深めさせる。
(b)	前半 14	流体力学、伝熱学、塑性学における基礎的事項を題材として数値シミュレーションについて学習させる。自らプログラミングし、その結果をグラフィック化する経験を通じて数値シミュレーションの基礎と応用について体得させる。
(c)	後半 14	地下資源開発や岩盤構造物建設を題材として、地殻や岩盤の調査及び探査、評価、解析ならびに採掘計画や設計施工に至る一連の流れにおける地質調査の役割と考え方、各種地質調査・計測技術とその適用、得られた地質情報の解析と評価・利用技術について解説するとともに、実例を対象とした演習や実習を通じて、これらに関する基本的な考え方や方法を体得させる。
(d)	後半 14	単純なシステムの動的挙動を対象として、現象の計測、対象のモデル化、制御系の設計・製作を実習することによって、計測と制御（アナログとデジタル）及び電気回路製作の基礎を学ばせる。1自由度振動系のアクティブ制振を取り上げ、計測（振動現象のパソコンによる自動計測）、理論（現象の理論モデル及び振動制御の理論）、設計（制御系設計実習）、製作1（パソコンを核とした制御システムの構築）、製作2（電気回路による制御系の実現及び回路製作とその評価）を学習させる。

【そ の 他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。

地球工学デザインⅡ (環境工学コース)

31162

Design Exercise for Global Engineering II (Environmental Engineering)

【配当学年】4年前期

【担当者】武田信生・高岡昌輝・松井利仁・山本浩平

【内 容】3年次までに会得した工学原理をもとに、環境施設の具体的な問題に対して創造的にアプローチする。前半の講義では、環境施設のうちの廃棄物処理施設に関する基本計画および設計を行う。後半の講義では、環境施設から排出される大気汚染物質の挙動の予測手法および施設からの騒音制御手法について習得し、具体的な計算を行う。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
廃棄物の排出量予測と基本計画	3	都市ごみ、産業廃棄物の発生量予測法を習得し、具体的な都市を想定して設計のための基礎数値を算定する。
廃棄物焼却施設の基本設計	3	燃焼計算を中心とした熱・物質収支の取り方を習得し、具体的な設定条件に基づいて基本設計計算を行う。
大気汚染物質の拡散計算	3	大気汚染物質の拡散予測手法を習得し、具体的な設定条件に基づいて、予測計算を行う。
施設からの騒音制御手法	3	環境施設からの騒音予測および騒音制御手法について習得し、具体的な設定条件に基づいて予測計算を行う。
結果の反省と評価	1	前回までに行ったそれぞれの計算結果について、総合的に議論を行い、評価し問題点を挙げる。

【教科書】プリントを配布する。

【参考書】その都度指示する。

【予備知識】既習の原理や理論が基礎になるので、関連科目の履修が望ましいが、必須ではない。

【その他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加があり得る。

学外実習第二

31020

Spot Training 2

【配当学年】4年前期

【担当者】関係教員

【内 容】社会基盤施設の整備に取り組む国，地方公共団体，公団，公社などの諸機関において，構造工学，水工学，地盤工学，計画学などの地球工学の方法論や考え方を，実際への適用例を通して習得させる。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
構造工学，水工学，地盤工学，計画学に関わる実習	*	構造物の力学特性およびその合理的設計を実現する構造工学の方法論，水工構造物の設計の基礎となる水の力学および水文学，土・岩盤の特性および土構造物の設計の基本的考え方，各種構造物を合理的に計画する方法論の原理などを実際への適用例を通して習得させる。

【予備知識】構造力学，水理学，土質力学および計画システム分析等の基礎科目を前提としている。

【そ の 他】当該年度の受入機関などに応じて実習内容を決める。

春季休暇中の約1ヶ月間

工学倫理

21051

Engineering Ethics

【配当学年】4年後期

【担当者】大島・田中（一）・河合

【内 容】現代の工学技術者、工学研究者にとって、工学的見地にもとづく新しい意味での倫理が必要不可欠になってきている。本科目では各学科からの担当教官によって、それぞれの研究分野における必要な倫理をトピックス別に講述する。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
イントロダクション(工学部 大島幸一郎)	1	工学倫理とは。なぜいま工学倫理なのか。化学物質と環境問題。レポート等の提出に関する注意・成績評価基準などのガイダンスも行う。
応用倫理学としての工学倫理(文学部 水谷雅彦)	1	工学倫理の基本的な考え方を、他の応用倫理との比較において検討し、現代の科学技術の特殊性について、哲学的、倫理的な考察を行う。
環境リスクと環境倫理(地球工学科 内山巖雄)	1	環境と人間の係わりを認識し、環境負荷を与える我々人間活動と環境リスクシステムについて述べる。次に持続可能な発展から循環型社会を目指すこれからの環境工学の役割と環境倫理について講述する。
公共事業に携わる技術者の倫理(地球工学科 木村亮)	1	構造物を支持する基礎構造の開発を例として、公共事業に携わる技術者の倫理について考える。公共事業の仕組み、新技術開発の難しさ、技術者の閉鎖性、技術者としての責任感などについて説明する。
建築設計・施工における技術者倫理(建築学科 渡邊史夫)	1	安全で安心な建物を供給していく為に必要な建築生産における要点を、構造設計、材料や部材製造及び現場施工の立場から講述する。その中から、建設産業に係わる技術者が持つべき倫理観を引きださせる。
特許と倫理(法学研究科 松田一弘)	2	知的創造時代における特許制度の役割について基礎的な事項を学びながら、発明者と社会(公共の利益)、発明者と組織(企業・大学)との関係などを含め、特許をめぐる倫理問題について考える。
情報倫理(情報学科 富田眞治)	1	現在ウェブにつながれたコンピュータは、我々の生活から切り離せないものになってきているが、反面多くの問題を引き起こす可能性もある。ネットワークを利用する上で守らなければならない情報倫理について述べた後、ロバストな情報システム構築に向けての技術課題について述べる。
遺伝子操作と倫理(工業化学科 今中忠行)	1	ゲノミクスを背景とした創薬研究など、バイオテクノロジーの発展は著しい。そのような時代にあって、遺伝子組換え実験、遺伝子組換え食品、遺伝子治療などにおける倫理と public acceptance (PA) の必要性について述べる。
環境と高分子(工業化学科 増田俊夫)	1	プラスチックなどの高分子物質は現代生活において不可欠となっているが、環境問題と関係していることもよく知られている。高分子の科学と工業の発展、化学物質・高分子物質と環境問題との関係、循環型社会の構築、環境/エネルギー問題に対する高分子化学の取り組み、関連技術者の倫理などについて講述する。
ヒトを対象とする工学(物理工学科(国際融合創造センター) 富田直秀)	1	本講義ではヒトや医療を対象とした工学設計の実例を提示し、そこに絡む倫理的な問題を考察する。安全と安心とは根本的に異なった方法で追求される。そのどちらもが満足されなければ、社会の中に有益な価値を創出することはできない。その具体的な方法論に関しても討議をしたい。
21世紀の課題と倫理(物理工学科 石原慶一)	1	地球温暖化をはじめ多くのエネルギー・環境問題が話題になっている。これらの問題の根本には倫理の問題が常に存在する。それらの特徴を明らかにしながら、倫理とは一体何かについて講述し、我々は現代社会を如何に生きるかについて考察する。

【教科書】講義資料を配布する。

【その他】桂キャンパスと吉田キャンパスとで遠隔講義を行う。当該年度の授業回数などに応じて、一部省略、追加及び講義順序の変更がありうる。[対応する学習・教育目標] C. 実践能力 C3. 職能倫理観の構築

建築工学概論

30890

Introduction to Architectural Engineering

【配当学年】4 回生後期

【担当者】渡邊・上谷・井上・鈴木

【内 容】建築に関する各種構法の初歩的概説および建築の各構成要素について技術的考察を行う。まず木・土・石の建築などで構成される建築の発生とその後の変遷について、空間概念・構成を中心に概説する。次に近代建築の構造形式と各構成要素の解説を行い、それらの実現過程と構法計画の基礎的事項を講述する。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
建築の始まりと変遷	4	建築の始まりと変遷を、(1) 人間の生活の発生に関連して初源のシェルターとしての建築の機能と意味、(2) 古代の日乾レンガの建築から始まる組積造建築、(3) 石造建築の組積造から軸組構造への発展と構造的展開、(4) 木造建築の特徴と木割りによる構成木組の構造的仕上等、を通じて講義する。
建築物の構造の仕組み	5	建築物の構造の仕組みを、(1) 建築物に作用する荷重・外乱、(2) 鉄骨構造・鉄筋コンクリート構造・木構造・組積造・複合構造など構成材料からみた構造法、(3) 骨組構造・シェル構造・吊構造・膜構造など力学的性質からみた構造形式、の観点から講述する。
建築物の実現過程	4	建築物の実現過程について、(1) 企画から設計、施工、維持保全に至るプロセスの概観と関係する職能・技術者、(2) 様々な在来型および革新的技術、構工法、の観点から講述する。

【教科書】構造用教材（日本建築学会）

【その他】[成績評価] 期末試験により行う。[オフィスアワー] 講義時間中に指示する。[対応する学習・教育目標]B. 専門知識と基礎知識 B1. 科学的問題解決能力

工学部シラバス 2005 年度版
(A 分冊 地球工学科)
Copyright ©2005 京都大学工学部
2005 年 4 月 1 日発行 (非売品)

編集者 京都大学工学部教務課

発行所 京都大学工学部

〒 606-8501 京都市左京区吉田本町

デザイン シラバスワーキンググループ
syllabus@kogaku.kyoto-u.ac.jp
印刷・製本 電気系電腦出版局
(075) 753-5322

工学部シラバス 2005年度版

- A 分冊 地球工学科
- B 分冊 建築学科
- C 分冊 物理工学科
- D 分冊 電気電子工学科
- E 分冊 情報学科
- F 分冊 工業化学科
- オンライン版 <http://syllabus.kogaku.kyoto-u.ac.jp/>



京都大学工学部 2005.4